

季潭宗泐と『全室和尚語録』

——『全室和尚語録』の紹介とその翻刻——

佐藤 秀孝

はじめに

明代初期の江南禅林に重きをなした臨済宗大慧派の禅者と
して、季潭宗泐（全室、一三一八—一三九一）という人の存在が
知られている。宗泐は明が建国されるや江南禅林の僧政を整
頓して禅旨を挙揚し、この時代の中国仏教界に輝かしい貢献
をなしている。しかしながら、その反面で明の太祖朱元璋
（洪武帝、一三二八—一三九八、在位は一三六八—一三九八）の専制
政治の下で悲惨な辛酸を味わうことも多かったように、いわ
ば明初の宗教政策の犠牲になった人ともいえる。

一方、宗泐には入明した日本僧の法嗣として中国の四川や
河北の禅林で活躍した無初徳始（？—一四二九）という禅者が
存しているほか、室町初期の日本の五山禅林に活躍した日本
禅僧に対してもかなりの影響を与えている。夢窓派の絶海中
津（要関・蕉堅道人・仏智広照浄印翊聖国師、一三三六—一四〇五）

をはじめとして宗泐に参学した日本禅僧もかなり存している
のであって、彼らは宗泐に師事して深遠な禅旨を参究すると
いうよりは、その作偈法（詩文）など禅文学の面で学ぶところ
が多かったようである。宗泐は元代末期に活躍した師の笑隠
大訶（蒲室・広智全悟大禅師、一二八四—一三四四）とともに遠く
日本の中世中末期における五山文学隆盛の一躍を担っていた
とすらいってよく、彼らの作風は蒲室疏法として日本禅林に
好まれたのである。宗泐には詩文集として『全室外集』九卷
と付録の『全室外集続編』一卷が伝えられている。『全室外
集』は中国では後に『四庫全書』に収められて一般知識人に
も親しまれているが、日本禅林においても好まれ、室町期に
覆明五山版九卷二冊が刊行されており、また寛文九年（一六
六九）に刊行された二卷二冊の江戸刊本が存するほか、京都
大学付属図書館には建仁寺両足院本を写した別本の『全室藁』
一冊が伝えられている。近年では『禅門逸書初編』第七冊に

『四庫全書』所収本の『全室外集』が影印されて閲覧に便がよいが、これもできれば日本に残る古版の五山版などを底本にすることが望まれたところである。

このように『全室外集』は中国のみでなく日本禅林でも好まれたのに対し、いま一つ宗泐にはこれまで顧みられることのなかった基本資料として『全室和尚語録』という語録が現存している。『全室外集』があくまで宗泐にとって詩僧としての外集（詩文集）であったのに対し、『全室和尚語録』こそは宗泐にとって禅僧としての面目を示すものであったはずである。にもかかわらず、この『全室和尚語録』三巻一冊は従来まったく活字化されることもなく、その存在はなぜかこれまで注目されずに終わっている。『大正新脩大藏經』や『増補大藏經』はもちろんのこと、近年に台湾でまとめられた『禅宗全書』など中国禅僧の語録をまとめた叢書にも、『全室和尚語録』は一切収められていない。現在のところ、『全室和尚語録』はわずかに京都大学付属図書館に唯一の筆写本が所蔵されているのみなのである。

先般、「入明僧無初徳始の活動とその功績——嵩山少林寺に現存する扶桑沙門徳始書筆の塔銘を踏まえて——」（駒澤大学仏教学部研究紀要『第五五号』）と題して、宗泐の法嗣である無初徳始の事跡をまとめるのに際し、京都大学付属図書館に所蔵される『全室和尚語録』を閲覧複写する機会を得た。その

とき、この貴重な語録を是非とも公にすべきであると実感し、ここに『全室和尚語録』について一考をなし、合わせて『全室和尚語録』の全文を紹介するものである。

季潭宗泐の略伝

宗泐に關してもっとも基本となる伝記資料は『全室和尚語録』巻末に付される「前天界禅寺住山全室大禅師塔銘并序」（以下、単に「全室大禅師塔銘」と略称）にほかならない。「全室大禅師塔銘」は同じ大慧派の岱宗心泰（仏幻、一三二七—一四一五）によって撰せられたものであり、『全室和尚語録』巻三の巻末に収録されるのみであったことから、これまでまったく紹介されなかった新出の史料である。宗泐に關しては『増補大藏經』卷五や『祖燈大統』卷八二、『南宋元明禅林僧宝伝』卷一三など燈史・僧伝に広く伝記が収録されているが、以下、「全室大禅師塔銘」の記載を中心に燈史・僧伝の内容を加味して簡略にその足跡をまとめてみることにしたい。

この人は法諱を宗泐といい、道号ないし字を季潭と称しており、別号を全室という。台州（浙江省）臨海県の出身で俗姓は周氏であり、元の延祐五年（一三一八）七月一七日に出生しており、父の名を周吉甫、母の姓を葛氏と伝えている。わずか八歳にして大慧派の笑隱大訢に随従し、至元三年（一三三七）に二〇歳で受具している。杭州（浙江省）錢塘県の中天竺

禅寺（もと中天竺天寧万寿永祚禅寺）や南京（江蘇省）応天府の鳳山龍翔集慶禅寺（後の天界寺）において大訢に参学し、大訢を通して儒教の經典や唐宋詩人の詩文など多くの教養をも身につけたものと見られ、それがやがてこの人の詩禅一致の学風を形成していったのである。その後、大訢との間で唐代の南陽慧忠（大証国師、？―七七五）にちなむ「国師三喚」の古則公案によって大悟している。

また宗泐は早くより当代随一の文人名儒らと交流を持っていたらしく、虞集（字は伯生、号は邵庵、文靖公、一二七二―一三四八）や黄潜（字は晋卿、文獻公、一二七七―一三五七）および張翥（字は仲举、号は蛻菴、路国公、一二八七―一三六八）らと方外の交わりをなしていたとされる。

その後、宗泐は諸山歴遊の行脚に出ており、大慧派の元叟行端（慧文正辯仏日普照禅師、一二五五―一三四一）を杭州余杭県西北五〇里の径山興聖万寿禅寺に参じて問答を交わし、機縁の語句が契って記室すなわち書記を勤めたとされる。

元の至正七年（一三四七）二月一九日に宗泐は宣州（安徽省）寧国府涇県西の水西宝勝禅寺に入院開堂し、住持すること二〇年にも及び、その間、寺門の荒廢を復興している。明が中国を統一した洪武元年（一三六八）の四月一五日に宗泐は杭州錢塘県靈隱山中の中天竺禅寺に入寺し、洪武四年（一三七二）正月二五日には杭州余杭県の径山興聖万寿禅寺に陞住してい

る。その年の冬に明の太祖に召されて南京にて法要を説き、洪武五年正月一九日には天界善世禅寺に勅住している。

洪武一〇年（一三七七）春には詔を奉じて天台宗の愚庵如玘（大璞、一三二〇―一三八五）とともに『般若心経』『金剛般若経』『楞伽経』の三経に註をなし、太祖の信認を得ていたが、何らかの機嫌を損してか、太祖の命で仏書の遺逸を求めて門人三〇余人とともに西域への旅に出させられている。洪武一五年（一三八二）三月によく帰国し、右街善世の職に充てられている。その後も左丞相の胡惟庸の反乱に加担した疑いで鳳陽（安徽省）定遠県西北七〇里の槎峰寺（円通禅寺）において新寺建立の執役に従事し、洪武一九年（一三八六）の秋に天界寺に帰山している。さらに火災で焼失した伽藍を復興するなど尽力し、洪武二三年（一三九〇）の夏に再び天界寺に住持し、洪武二四年には右街善世として再び天下の釈教を統括している。

しかしながら、まもなく槎峰寺に帰って隠閑し、さらに江浦（江蘇省）東北一八里の石仏寺において微疾を示し、洪武二四年九月一〇日に世寿七四、法臘六〇にして示寂している。墓塔は天界寺に建てられ、槎峰にも塔が建てられている。「全室大禅師塔銘」や燈史を整理すると、宗泐の法嗣としては湛然自性・一宗守欽・行忠・普華・如昇・無初徳始・鼎庵恕・古章憲・素庵行という九名の名が知られている。

『全室和尚語録』の体裁

つぎに季潭宗泐の語録として現在のところ唯一の資料である京都大学付属図書館所蔵『全室和尚語録』三巻一冊について、その形態と内容を一通り整理してみることにしたい。

『全室和尚語録』は京都大学付属図書館の図書整理番号が『蔵一七セ九』となっており、巻一・巻二・巻三（または上巻・中巻・下巻）という三巻を一冊にしている。筐は薄茶色で少し鶯色がかっており、表の右上部と柱の上部には「全室和尚語録 全」とあり、柱の下部に「蔵経本一七セ九」と記されている。冊子は袋綴で、表紙は薄茶色であり、縦は二三・二センチ、横は一六センチとなっている。表紙の左上には「全室和尚語録 全」とあり、間には「一〇三二」という数字が付されている。また表紙の右上部に「蔵一七セ九」という蔵書番号が張られている。第一紙は内題のみであり、表の左上部に「全室和尚語録 全」と書されている。

本文は全体で八六丁、半葉に二〇字一行で書されており、朱点が付されている。本文の第一丁には上部右に「一三六〇四六 大正三・二・五」の印、上部左に「京都帝国大学図書印」の印、下部右下に「株式会社蔵経書院印」の印がそれぞれ押されている。これによれば、この『全室和尚語録』はもともと大蔵経編纂のために株式会社蔵経書院が日本国内

の諸地を散策し、収集あるいは書写した仏典・禅籍などの一つであったことが知られ、『大正新脩大蔵経』の編纂が終わった時点で大正三年（一九一四）二月五日に京都帝国大学図書館に寄贈されたものである。

そこで、若干ながら煩瑣にわたるところもあるが、『全室和尚語録』の内容について、一通り見出しを載せてみることにしたい。

『全室和尚語録』巻一（巻上）は、上堂・小参など宗泐が住山した各禅寺で正式に大衆（修行僧）に対して述べた語録をまとめた部分であり、全体で三四丁より成っている。ただ、残念ながら巻頭には何ら序文の類などは存していない。

最初に門人自性等編「全室和尚住宣州水西宝勝禅寺語録」として「師於至正丁亥二月十九日入寺」「上堂」「上堂」「上堂」「廣智先師忌拈香」「上堂」「解夏小参」「重九上堂」「開爐上堂」「十月初五日達磨大師忌拈香」「上堂」「冬至小参」「除夜小参」「正旦上堂」「上堂」「仏涅槃上堂」「上堂」「上堂」「上堂」「上堂」「上堂」「結夏上堂」「解夏上堂」という二二の上堂・小参・拈香を収めている。

また、つぎに門人守欽等編「杭州府中天竺禅寺語録」として「師於洪武元年戊申四月十五日入寺」の上堂に始まり、「当晚就結夏小参」「上堂」「解夏上堂」「叙謝蔵主上堂」「中秋上堂」「達磨忌拈香」「冬至上堂」「仏成道日上堂」「除夜小

参」「正旦上堂」「仏涅槃上堂」「上堂」「結夏小参」「中秋上堂」「上堂」「上堂」「上堂」という一八の上堂・小参・拈香を収めている。

ついで門人普華等編「径山興聖万寿禪寺語録」として「師於洪武四年辛亥正月二十五日入寺」の陞座に始まり、「当晚小参」「仏涅槃上堂」「結夏小参」「広智先師忌拈香」「上堂」「解夏小参」「中秋上堂」「蔣山水陸会陞座」という九つの上堂・小参・拈香・陞座を収めている。

さらに最後に門人行忠・慧和等編「京都天界善世禪寺語録」として「師於洪武五年壬子正月十九日入寺」の陞座に始まり、「当晚小参」「上堂」「蔣山法会為鬼神説法」「仏涅槃上堂」「上堂」「上堂」「冬至上堂」「元旦上堂」「元宵上堂」「上堂」「仏誕上堂」「結夏上堂」「端午上堂」「解夏上堂」「中秋上堂」「上堂」「金山心海和尚遺書至上堂」「開爐開新浴室上堂」「達磨忌拈香」「客至上堂」「冬至上堂」「上堂」「首座赴会帰上堂」「上堂」「除夜小参」「叙謝頭首上堂」「百丈忌拈香」「上堂」「浄慈竹庵和尚至上堂」「結夏小参」「端午上堂」「広智先師忌拈香」「上堂」「為壁峰和尚対靈小参」「解夏小参」「開爐上堂」「闡仲猷・勤無逸使日本迴上堂」「瑞巖恕中和和尚至上堂」「上堂」「上堂」「仏誕上堂」「金山甘露諸山主至上堂」「信士張覚宗薦亡考請小参」「潘信士為亡考設齋小参」「壁峰和尚忌辰陞座」「水陸会為鬼神説法」という四七の上堂・

小参・拈香・陞座を収めている。

この上堂語録によって、宗泐が宣州(安徽省)の水西宝勝禪寺に出世開堂したのが至正七年(一三四七)二月十九日であり、杭州(浙江省)の中天竺禪寺に入寺したのが洪武元年(一三六八)四月一五日であり、杭州の径山興聖万寿禪寺に入寺したのが洪武四年(一三七二)正月二五日であり、南京の天界善世禪寺に入寺したのが洪武五年(一三七二)正月一九日であったことが具体的に知られ、各寺院での活動時期が明確となるのである。

『全室和尚語録』卷二(卷中)は「偈頌歌序書」とあり、偈頌・歌・序・書をまとめた部分であって、ここは全体で二四丁となっている。

はじめに「偈頌」に当たる部分として「示江西円禅人」「贈閩僧琦禅人(琦之師有送行話)」「示聞禅人」「贈道場寧藏主」「送真禅人」「示顛殿主」「贈蔣山英藏主」「示慧禅人」「示礼禅人」「示印禅人」「示華禅人」「示輝禅人」「固庵号为貞長老作」「送就禅人還山東(洞宗人)」「送玉禅人」「次韻寄育王約之兄」「本源号为源藏主作」「送蔣山隱藏主」「送剛禅人礼補陀」「示印禅人」「示坦侍者」「示金山隱藏主」「示承天智維那」「無言号为妙講師作」「第一座性源禅師、領衆三千、濠梁説法帰、説偈二首賀之(二首)」「示礼知客」「送莊藏主回越」「贈蔣山禎藏主」「示紹侍者」「示居侍者」「送黄龍□侍者

「題諸師遺墨後」「題諸老偈卷後」「題寂照与先師等尊宿十三人勝集圖」「跋覺範和尚墨迹」「題靈源清禪師小簡後」「題五十三參図後」「跋天目和尚遺墨」「題大經問答要義後」「題仁一初講經文集後」「跋潞国張公詩集後」「題東坡題虎跑泉詩後」「跋虞黄二公帖後」「題泰岱宗仏法金湯編後」「題米芾書嵩山珪禪師」が収められている。その後、「祭文」に当たる部分として「祭先師」「祭牧隱和尚」「祭清涼用堂法叔」「祭淨慈竹菴法兄」が収められている。巻末に杭州余杭県の徑山興聖万壽禪寺の岱宗心泰が撰した「前天界禪寺住山全室大禪師塔銘并序」が載せられて『全室和尚語録』卷三(巻下)は終わっており、何ら跋文などは載せられていない。

このように上堂・小参などを中心に『全室和尚語録』三巻一冊を眺めてみると、宗泐の久しい住山期間からしても分量はかなり少ないものであって、おそらく宗泐のなした上堂・小参その他をすべて網羅しているのではなく、あくまで抜粋本として限定されて編集されたものと見るべきであろう。

筆写は厳格で二〇字一行で誤字があった場合、誤字の横に忠実に文字を質している。また行を間違えて書写した場合も、挿入のしるしを付して行全体を入れ替えるように指示しており、行数や丁数がずれないように筆写に心掛けています。これは京都大学付属図書館本が依った原本が筆写本ではなく、あくまで刊本であったことを示すものではなからうか。

このことを証明するかのごとく京都大学図書館本の『全室和尚語録』にはその痕跡がいくつか残されている。

『全室和尚語録』巻一のそれぞれの上堂語録の終わりには「宝勝語録終」「中竺語録終」「徑山語録終」「天界語録卷終」と書されているが、ともに朱で×印が記されている。また巻一の末尾には、

京都龍泉庵助縁比丘 吉祥

驍騎右衛門居助縁善信芳名于後

朱福真 王福得 王文殊奴

尤妙通 蕭妙真 卞妙果

という注目すべき刊記が書されているが、これもやはり朱で×印が付されて消されている。しかしながら、この部分は『全室和尚語録』がかつて刊行されたことを如実に伝えるものにほかならない。京都龍泉庵の吉祥という僧が助縁比丘となり、さらに助縁の善信(信士)として六名の在俗の徒が中心となって刊行されたというのである。ただ、助縁者の名からすると、明らかに明版であったことが知られ、京都龍泉庵というのも日本の京都のことではなく、天子の都(京師)としての京都、すなわち明代初期の国都応天府(南京)のことを指していると思われる。驍騎右衛門とは宮城守備の近衛兵のことであり、龍泉庵で『全室和尚語録』が刊行される際に朱福真らの人々が助縁しているわけである。おそらく『全

室和尚語録』は宗泐の生前からまとめられていたものであるが、宗泐が洪武二四年（一三九一）九月に示寂した後、刊行に向けて編纂事業が進められていたものであろう。

これに対して、巻二の末尾には「比丘絶海助刊」という語が書されているが、やはり朱で×印が付されている。ここにいう比丘絶海とは状況的に宗泐に参学した経験を持つ日本の絶海中津のことを指しているものと推測される。とすれば、この『全室和尚語録』は明版が日本に伝わって後、さらに中津によって覆明刊五山版が重刊されたものではなからうか。中津が示寂するのが応永一二年（一四〇五）四月のことであるから、中津が『全室和尚語録』の助刊に尽力し得たとすれば、それは応永一二年より以前でなければならない。

また巻三の「前天界禅寺住山全室大禅师塔銘并序」の末尾には「古井天龍禅寺前住山比丘昌海、焚香拜書」という付記が存している。ここにいる天龍寺前住の昌海は「前天界禅寺住山全室大禅师塔銘并序」のみを焚香拜書しているのか、あるいは『全室和尚語録』全体を焚香拜書しているのかは明確でない。しかも日本の京都嵯峨野に存する靈龜山天龍資聖禅寺（天龍寺）の歴住世代の中には昌海という法諱を持つ禅者の名は伝えられておらず、ここにいる天龍寺とは日本の天龍寺のことを指しているのではなく、杭州钱塘県の龍華山（龍山）に存した天龍感業禅寺のことを指している可能性が強い。い

ずれにせよ、昌海が具体的に如何なる経歴の禅者か不明であるのが惜しまれる。

ところで、杭州余杭県の径山興聖万寿禅寺の住持として岱宗心泰が「前天界禅寺住山全室大禅师塔銘并序」を撰したのは永楽元年（一四〇三）二月であったと推定され、この塔銘を付載した『全室和尚語録』が日本に齎され、さらに中津によって覆明版が重刊され得た期間となれば、応永一〇年二月以降から応永一二年四月までというわずか二年あまりの期間に限定されることになろう。

しかも注目すべきは先に示した巻一の終わりにある刊記の後に、さらに朱字で「全室和尚語録卷上」と記されており、「第一巻」とあったのを「上巻」と改めるよう指示してある。

同様に巻二の題目ももと「全室和尚偈頌歌序書卷第二」とあったものを「全室和尚語録卷第二」とし、改行して「偈頌歌序書」と改めるように朱で指示しており、また巻二の本文の最後にも「全室和尚語録卷中」の書き入れが存している。同様に巻三の題目ももと「全室和尚記讚題跋祭文卷第三」とあったものを「全室和尚語録卷第三（巻下）」とし、改行して「記讚題跋祭文」と改めるように朱で指示してある。

一方、巻一には「正看疑者」「正月々一作日月」「正浄疑静」「正蟻一作臺」「正驚一作驚」という注記があり、巻二にも「正祐一作佑」「正葛或藤敷」「正出一作去」といった注記が

あり、さらに卷三の一葉の脱落箇所には「脱丁」あるいは「正幻上原本佚失一十二行、行二十字一葉」と記されている。

これらのことは何れも京都大学付属図書館本（もと藏経書院本）を筆写した人が何らかのかたちで別本を見ていたことを伝えるものであり、その存在を想起させる記述であつて、箇所こそ少ないながら校訂がなされているわけである。このように見てくると、京都大学付属図書館に所蔵される『全室和尚語録』は、明版を重刊した五山版をさらに忠実に複写し、しかもいま一つの別本と対校し得たものであると推定される。ただ、この京都大学図書館所蔵本が何れの寺院ないし文庫より『全室和尚語録』を閲覧筆写したのが不明であることと、若干の脱落箇所が存していることが惜しまれる。

ところで明初に編纂された『増集続伝燈録』卷五の宗泐の章には、六種の上堂が収録されているが、第一の「上堂」は中天竺寺における第一八番目の「上堂」であり、第二の「上堂」は径山における第六番目の「上堂」であり、第三の「冬至上堂」は天界寺における第二二番目の「冬至上堂」であり、第四と第五と第六の「上堂」はそれぞれ天界寺における第二三番目と第四〇番目と第四一番目の上堂に相当している。したがって『増集続伝燈録』に引用される宗泐の上堂語はすべて『全室和尚語録』を受けており、しかも語録の上堂語の順序に沿って並べられているのであつて、編者である大慧派の

南石文琇（一三四五―一四一八）は明確に『全室和尚語録』を閲覧していたことになる。

これに対して、明末清初に編纂された『五燈会元統略』卷二下や『五燈巖統』卷二二、『祖燈大統』卷八二や『五燈全書』卷五六などの宗泐の章には、わずかに中天竺寺における「四月十五日入寺上堂」が全文または前半部のみで収録されているにすぎない。

ただし、清の康熙五年（一六六六）に臨濟正宗の呆翁行悦によつて編纂された『列祖提綱録』には、卷六に「全室泐禪師百丈忌拈香」として天界寺における第二八番目の「百丈忌拈香」を、卷二五に「季潭宗泐禪師、於洪武元年戊申四月十五日住中竺入寺上堂」として中天竺寺への入寺上堂を、卷三二に「全室泐禪師請両序上堂」として天界寺における第二七番目の「叙謝頭首上堂」を、卷三七に「全室泐禪師解夏上堂」として天界における第一五目の「解夏上堂」をそれぞれ収録している。

いずれにせよ、後代の中国禅林にも何らかのかたちで『全室和尚語録』が残されていたことが知られるわけであり、その伝存が確認されないのが惜しまれる。この点、京都大学図書館に『全室和尚語録』が筆写本として所蔵されていたことは、まさに希有なる幸運であつたといえよう。

『全室和尚語録』の翻刻

凡例

一、左記は京都大学付属図書館所蔵『全室和尚語録』三卷一冊の翻刻である。

一、翻刻に当たっては、改行箇所や空白部分などは原本に準ずるが、紙面の都合上、丁分けや頁分けなどは明記しないものとする。

一、翻刻に当たっては、原則として略字体・別字体・俗字体なども原本通りそのまま再現するが、必要に応じて正字で示した場合もある。また筆写体文字や異体文字の場合、ときに活字用正字に改めたものもある。摠は總、楳は棒など。

一、すでに本書の筆写段階で虫食いなどで不明とされて空白となっている部分は、一字ならば□で示し、二字以上の場合には文字数に準じて□□で示すことにする。また脱丁などで空白部分が多分に及ぶ場合はその旨を明記しておく。

一、句読点は原本に朱字で一応は示されているが、判読上、筆者なりに妥当と見られる点・丸を補っておきたい。

一、原文で区分が曖昧な己・已・巳や千・干・于などの区別は、文意により適切な文字を筆者なりに選定しておく。

一、踊り字「々」に関しては、状況により本来の字に改めた場合が多い。

一、朝廷や皇帝に関する字句などの場合、原文では一字を開けたり、改行して一字分高く記したりしている箇所もあるが、こ

こでは字をつづけておく。

一、人名や地名などが並列している場合、便宜上わかりやすく、を使用した箇所もある。

一、原文には見られないが、区分上、「一」によって分類を明確にした部分が存する。

一、本文中の語の右に（ ）で示した文字は、原本の上段に別本との異同が示されているもの、あるいは明らかに誤写と見られる箇所を筆者なりに校定したものである。

全室和尚住宣州水西寶勝禪寺語錄

門人 自性 等編

師於至正丁亥二月十九日入寺。

指山門。豁開戶牖，衝關者誰。紅霞穿碧落，白日繞須彌。

佛殿。佛身無爲，不墮諸數。彩鳳舞丹青，鐵蛇橫古路。

土地。此大神王，草偃風行，承諸佛勅，護我法城。

祖堂。西天四七，東土二三，總是弄光影漢。顧左右云，一堂

風冷淡，千古意分明。拈疏畢，指座召大眾云，還見麼。坐斷

報化佛頭，掃蕩千妖百怪。縱是銅頭鐵額，也須速禮三拜。喝

一喝。遂陞座拈香云，此一瓣香、爇向爐中，恭爲北闕之至尊、

上祝南山之聖壽。次拈香。此一瓣香、齎著則腦門裂，覷著則

眼睛枯，遇賤則分文不直，遇貴則價重娑婆。今對人天衆前、

爇向爐中，奉爲大龍翔集慶禪寺開山第一代廣智全悟禪師笑隱

大和尚、用酬法乳之恩。歛衣就座。一喝分賓主，照用一時行。

免頭上截角，日午打三更。雖然與麼、新寶勝、已是第二門頭、

與諸人相見了也。有能併却咽喉唇吻，向未開口以前，出來露

箇消息看。^(者)還有麼。問答不錄。乃豎拂子，召大眾云，看山僧

拂子，爲汝諸人、發揮本地風光、震耀末世叢林。追回此道、

昭廓無餘、空劫前事、只在今朝、左右逢源、縱橫無礙。王法

佛法同行、食輪法輪齊轉。堪報不報之恩、共樂無爲之化。遂

擊拂子云，皇風無界置、佛日亘天長。敘謝不錄。

復舉、臨濟大師、問黃蘗佛法的大意、三度問、三遭六十痛

棒。師云、黃蘗雖則倚勢欺人、臨濟大似瘧子負屈。輒成一頌、
舉似大眾。三度問來三度打、箇中端的過由誰、從今養子不須
教、落賺歸來他自知。

上堂。春水碧春山青、華紅柳綠、燕語鶯鳴、色不是色、聲不
是聲。拈拄杖云、觀音菩薩將錢買胡餅、放下手却是生鍊。

上堂。默卽語、語卽默、大用現前、不存軌則。靈山拈華、少
林面壁、卽且置。德山棒、臨濟喝、是第幾機。

上堂。今朝五月五、家家慶端午、赤口盡消除、當門縣艾虎。
禪家流休莽鹵、信手是藥俱采取。不獨解除衆生病、佛病祖病

皆能愈。拈拄杖卓云、甘草自甜、黃連自苦。

廣智先師忌拈香。有德可酬、彌天罪犯、無恩可報、沒量冤愆。

總不恁麼、又且如何。一盲引衆盲、相牽入火坑。

上堂。上不見有諸佛、下不見有衆生、中不見有自己。懷州牛

喫禾、益州馬腹脹。天下覓鑿人、灸豬左膊上。卓拄杖下座。

解夏小參。有解有結、眼中著屑、無解無結、虛空釘椽。恁麼

也得、天高地厚。不恁麼也得、水闊山長。恁麼不恁麼總不得、

牛角長三寸、兔角闊八尺。天自天、地自地、山自山、水自水、

燈籠自燈籠、露柱自露柱。目前無法、意在目前。不是目前法、

非耳目之所到。且道、鏡清放僧三十棒、與雲門放洞山三頓棒、

是同是別。拈拄杖卓一下云、星河秋一鴈、砧杵夜千家。復舉、

僧問九峯云、西天夏末、有人得道、此間夏末、有人得道麼。

峰云、有。僧云、何者是。峰云、頭帶午夜月、脚踏黃金地。

草堂清云、疎山即不然、此間夏末、有人得道也無。即答道無。爲甚麼無。向道、人人具足、氣宇如王。且道、九峰是、疎山是。師云、九峰道有、疎山道無。一般醋味、兩個葫蘆。誰知九轉丹、出自紅焰爐。此土西天都不識、令人長憶老臊胡。

重九上堂。三四五六七八九、空裏猛風翻石臼。露柱燈籠咲滿腮、三世如來不知有。天邊白鴈向南來、籬下黃華開已久。應時納祐且寬懷、對人不用揚家醜。擊拂子下座。

開爐上堂。火爐頭話無賓主、一句當機休莽鹵。碧眼胡僧被熱瞞、黃面瞿曇難下箸。大衆、只如雪峯道、世界闊一丈、古鏡闊一丈。玄沙指火爐云、火爐闊多少。峰云、如古鏡闊。又作麼生。拈拄杖卓一下云、脚跟點地不點地、自有傍人說短長。

十月初五日達磨大師忌拈香。對梁皇道個不識、太殺顛頂。逢宋雲手携隻履、一場漏逗。以香置爐云、一年一度一爐香、四海叢林話轉長。

上堂。舉、趙州問南泉云、如何是道。泉云、平常心是道。州云、還假趣向也無。泉云、擬向即乖。州云、不疑安知是道。

泉云、道不屬知、不屬不知、知是妄覺、不知是無記。若真達不疑之道、廓徹太虛、豈可強是非邪。趙州於言下大悟。山僧輒成一頌、舉似諸人。古路坦平、千里萬里、擬心趣向、出門荆杞。王老師非直截、廓太虛強分別。七百甲子老古錘、打失眼睛曾不瞥。

冬至小參。烏飛兔走、暑往寒來、陰極陽生、日南長至。衲僧

家、不知月之大小歲之餘閏。一切時中、纖毫境界、移換他不得。孤峰頂上變通自由、十字街頭壁立萬仞。肇法師道、有物先天地、無形本寂寥、能爲萬象主、不逐四時凋。切忌向鬼窟裏坐却。摩拏羅尊者道、心隨萬境轉、轉處實能幽、隨流認得性、無喜亦無憂。正是平地上死人、與麼也得、不與麼也得、與麼不與麼總得。直得、上無攀仰、下絕已躬、一道神光、貫通今古。然雖如是、也須是個斬釘截鐵漢始得。卓拄杖。甜瓜徹蒂甜、苦瓠連根苦。

除夜小參。一念不生、前後際斷、一塵才起、世界全彰。世界未形、人物未有、向者裏、識得自己根源、方可論空劫已前底事。更無依倚、迥絕端倪、非色非空、非如非異、不與萬法爲侶、不與千聖同途。蕩蕩無拘、塵塵不昧。所以道、無邊利海、自他不隔於毫端、十世古今、始終不離於當念。似水洗水、如金博金。直須目機銖兩、舉一明三、左轉右旋、七穿八穴。天地以之交泰、四序以之遷流、日以之窮于次、月以之窮于紀、諸佛以之出世、祖師以之西來、天下老和尚以之接物利生、明眼宗師以之鉗鎚衲子。只如北禪烹露地白牛、與他一衆分歲、畢竟承誰恩力。拈拄杖云、明年更有新條在、惱亂春風卒未休。正旦上堂。新正把筆、百事大吉。以拄杖畫一畫云、一即三、三即一、牧羊海畔女貞花、拒馬河邊望夫石。卓拄杖下座。上堂。語修也一念萬年、諸佛斫額有分。語證也萬年一念、千聖摸索無門。以拂子畫圓相云、會醫還少病、知分不多愁。

佛涅槃上堂。諸佛不出世，亦無有涅槃。驀拈拄杖云、要見釋迦老子大人相麼。青山綠水大家看。擲拄杖下座。

寶勝語錄終。

上堂。舉、僧問洞山价和尚云、寒暑到來、如何回避。山云、何不向無寒暑處去。僧云、如何是無寒暑處。山云、寒時寒殺闍黎、熱時熱殺闍黎。輒成一頌、舉似大眾。無寒暑處如何到、一吸滄溟徹底乾、多少未明三八九、含元殿內覓長安。

杭州府中天竺禪寺語錄

門人 守欽 等編

上堂。一明一切明、一了一切了、黃昏上牀眠、起來天大曉。擊拂子云、處處聞啼鳥。

上堂。天地與我同根、萬物與我一體。毛吞巨海、芥納須彌。

雲門扇子踔跳、上三十三天、築著帝釋鼻孔。東海鯉魚打一棒、雨似盆傾。喝一喝。

佛誕上堂。未離兜率、已降王宮、未出母胎、度人已畢。今朝

四月初八、諸人隨例浴佛、要且不知落處。遂豎拂子云、夜半

賣油翁發笑、黑頭生得白頭兒。

結夏上堂。舉、雲門大師云、今日十五入夏也、寒山子作麼生。

自代云、和尚問寒山、學人對拾得。師云、大小雲門自起自倒、

拾得對寒山、用得來却好。禪家流休草草、擬思量何處討。擊

拂子下座。

解夏上堂。舉、僧問資福寶和尚、學人乍入叢林、一夏將末、

未蒙和尚指教、願垂提拯。寶托開其僧、乃云、自住持已來、

未曾睹却一人眼。師云、資福恁麼爲人、已是葛藤滿地、狼藉

不少。要見寶勝爲人處麼。良久下座。

師於洪武元年戊申四月十五日入寺。

上堂。金剛王劍橫揮、千妖屏跡、爍迦羅眼洞照、萬物潛形。

到此卷舒在己、殺活臨時、直得千歲巖中天踔跳、錢塘水東海

逆流。諸人還知有也無。遂豎拂子云、庭前石笋抽條也、會見

高枝宿鳳凰。敍謝不錄。復舉、南泉初入院、大眾送歸方丈。

僧問、端居丈室、將何指示於人。泉云、昨夜三更失却牛、天

明起來失却人。師云、大少南泉、不唯瞞人、亦且自瞞。新天

竺用處、也要大家知有。忽有問端居丈室將何指示於人、劈脊

便棒。且道、與古人是同是別。卓拄杖下座。

當晚就結夏小參。菩提妙性、剎剎全彰、般若靈光、塵塵解脫。

所以道、過去諸如來、斯門已成就、現在諸菩薩、今各入圓明、

未來修學人、當依如是住。既依如是住、不妨以大圓覺、爲我

伽藍、身心安居、平等性智。雪峰云、盡大地是箇解脫門、把

手拽不入、人貧智短。雲門云、盡大地是箇解脫門、枉作佛法

會、却馬瘦毛長。中竺到此總不恁麼。九十日內、飢則喫飢、

熱則取涼。但見皇風成一片、不知何處是封疆。復舉、世尊在

摩竭陀國、將欲向夏、謂阿難云、我常說法、四衆不生敬仰、

今向室中坐夏、忽有人來問法、汝代我說、一切法不生、一切法不滅。遂掩室而坐。師云、土曠人稀、相逢者少。只如摩竭掩室、何異畫蛇添足。新中竺即不然。卓拄杖云、丈夫自有衝天志、不向如來行處行。

上堂。十五日已前、轉山河國土歸自己、十五日已後、轉自己成山河國土。正當十五日、山是山、水是水、賓是賓、主是主。豎拂子云、一六三四二、直言曲七一、桃李火中開、黃昏候日出。擊拂子下座。

解夏上堂。一夏九十日、今朝都過了。汝等諸人、尅期取證、還得個入頭處也未。睦州道、若未得個入頭處、須得個入頭。若得個入頭、不得辜負老僧。西天以蠟人冰爲驗、東土以鍊彈子爲驗。且道、中竺以何爲驗。遂卓拄杖下座。

敘謝藏主上堂。一葉落天下秋、一塵舉大地收。古人道、要識不遷義、但向萬物凋落處會取。汝等諸人、若也會得、不妨奇特。擊拂子云、一大藏教是切脚、東山道個鉢羅孃。

中秋上堂。月月有圓有缺、圓時光從何處生、缺時光從何處滅。今夜正當最圓時、普請諸人試甄別。南泉百丈與西堂、三人證龜却成龜。

達磨忌拈香。少林冷坐幾星霜、隻履翩翩返故鄉、東土西乾無祖意、一華五葉自芬芳。

冬至上堂。日月不相饒、陽生陰又消。冰河能發燄、石笋解抽條。市井從喧雜、僧門自寂寥。西來無祖意、立雪謾齊腰。

佛成道日上堂。釋迦老子、臘月八夜、明星現時、打失眼睛。所以四十九年、三百餘會、說出許多之乎者也。檢點將來、也只成個義解沙門。逗到末後拈華、迦葉微笑、教外別傳、不立文字。正眼觀來、亦未是衲僧向上巴鼻。遂以拂子畫圓相云、黃金雖貴、落眼成塵。

除夜小參。今年今夜去、去無所去。明年明日來、來無所來。所以道、一法若有、毘盧墮在凡夫、萬法若無、普賢失其境界。到此正好、紅塵堆裏、發揮格外真機、十字街頭、揭示自家寶藏。北禪烹露地白牛、東山分溪上明月。雖然義出豐年、爭奈和泥合水。只如雲門大師道、拈燈籠向佛殿裏、將山門來燈籠上、蝦蟆跳上梵天、蚯蚓驀過東海。畢竟是何道理。卓拄杖云、大盡三十日、小盡二十九。復舉、法昌遇禪師、歲夜喫湯次、咸首座問云、昔日北禪分歲、曾烹露地白牛、和尚今夜分歲、有何施設。昌云、臘雪連天白、春風逼戶寒。座云、大眾喫個什麼。昌云、莫嫌冷淡無滋味、一飽能消萬劫飢。座云、未曾是什麼人置辨。昌云、無慚愧漢、來處也不知。師云、法昌隨宜施設、首座不知措辨。雖然賓主分明、大家欠具隻眼。如今一衆飽齋、匝地清風有何限。

正旦上堂。新年已前、有一句到汝、禿却我舌。新年已後、無一句到我、塞却汝耳。正當大年日、有句無句。如藤倚樹、忽然樹倒藤枯、畢竟句歸何處。南閣浮提赴齋、北鬱單越打鼓。臨濟德山不是祖、明眼衲僧休莽鹵。拍禪床下座。

佛涅槃上堂。正法眼藏、涅槃妙心。釋迦老子、臨涅槃時、分付摩訶大迦葉、傳付將來、毋令斷絕。今日是佛涅槃、且道、妙心作麼生傳、正法眼藏作麼生付。驀拈拄杖、卓一下云、櫻欄葉散夜叉頭、芍藥花開菩薩面。

上堂。春光欲暮、夏景將臨、華殘蝶老、柳暗鶯吟。卽事顯理、附物明心。水不洗水、金不博金。出頭天外看、幾個是知音。

結夏小參。據菩薩乘、修寂滅行、同入清淨、實相住持。以大圓覺、爲我伽藍、身心安居、平等性智。釋迦老子、二千年前、於大光明藏中、與十二大士、說此安居法門、釘虛空中鐵橛。

二千年後、寶掌巖前、諸比丘衆、於大海會中、修此安居法門、駕平地上鐵船。便與麼去、面南看北斗。不與麼去、日午打三更。到者裏、方知眼若不睡、諸夢自除、心若不異、萬法一如。

紅塵鬧市、身心安居、柳巷花衢、平等性智。遂擊拂子云、動落今時猶自可、淨沈死水更難甘。復舉、僧問長慶暹和尚云、

長期進道、西天以蠟人冰爲驗、此間以何爲驗。慶云、鍊彈子。

僧云、意旨如何。慶云、大底大、小底小。師云、長慶將鐵彈子驗人、大似邯鄲學唐步。忽有人問、中竺將何驗人。只向他道、黑漆竹篋無背觸、個中全主復全賓。

中秋上堂。吾心似秋月、碧潭光皎潔、無物堪比倫、教我如何說。好大衆、寒山子、將一栲栳明珠、盡情撒向諸人面前了也。

昔日靈山指月、曹溪話月、馬祖百丈西堂南泉玩月。檢點將來、盡是弄光影漢。遂擊拂子云、不是與人難共住、大都緇素要分

明。

上堂。舉、雲門大師道、十五日已前卽不問、十五日已後道將一句來。自代云、日日是好日。師云、大小雲門、恁麼舉話、前不救頭、後不救尾。中竺卽不然、十五日已前、暖日如春、十五日已後、霜風刮地。正當十五日、水流黃葉來何處、牛帶寒鴉過別村。

上堂。拈拄杖云、凡夫色礙、二乘空礙、菩薩色空無礙。山僧拄杖子、證此無礙法門、蹠跳上三十三天、穿却帝釋鼻孔。汝等諸人還知麼。遂擲拄杖下座。

上堂。苦樂逆順、道在其中。無苦無樂、無逆無順、道在什麼處。卓拄杖云、滿堂無限白蘋風、明明不自秋江起。

中竺語錄終。

徑山興聖萬壽禪寺語錄

門人 普華 等編

師於洪武四年辛亥正月二十五日入寺。

陞座。驀拈拂子云、撲落非他物、縱橫不是塵、山河及大地、全露法王身。到此孤迥迥、高超象帝之先、峭巍巍、獨步劫空之後。恢恢焉物物咸遵、晃晃焉塵塵至化。且道、具何道理、便乃如斯。擊拂子。一氣不言含有象、萬靈何處謝無私。敘謝

不錄。復舉、僧問睦州、以字不成、八字不是、是何章句。州彈指一聲曰、會麼。僧云、不會。僧云、上來講讀無限勝因、^(龜)蝦蟆跳上梵天、蚯蚓慕過東海。師云、睦州坐却人舌頭、直是無鵲啄處。雖然斬釘截鐵、未是本分草料。若是新徑山即不然。纔見伊開口、劈脊便棒。何故。不起纖毫修學心、無相光中常自在。

當晚小參。即心即佛、捫空揣骨、非心非佛、喚龜作鱉。^(龜)山頭

白浪滔滔、井底紅塵埽埽。若作佛法商量、塞壑填溝。直饒觸途無滯、達一切法空、猶是情存限量。徑山者裏、十方聚會、選佛場開。熱則搖扇取涼、困則伸脚打睡。無得無失、無證無修、自然徹骨徹髓、透頂透底。指禪床云、呵呵也大奇、一曲少林無孔笛、從來多是逆風吹。復舉、馬大師因僧問、離四句絕百非、請師直指西來意。祖云、我今日勞倦、不能爲汝說、問取智藏去。僧問藏。藏云、何不問和尚。僧云、和尚教來問。藏云、我今日頭痛、不能爲汝說、問取海兄去。僧問海。海云、我到這裏、却不會。僧迴舉似馬祖。祖云、藏頭白、海頭黑。輒成一頌、舉似大衆。頭白頭黑、當門荆棘、雨漲九河、風清八極。咸池古曲兮不在宮商、神駒逸足兮寧施控勒。一卽三、三卽一、機先截斷葛藤窠、無位真人赤骨律。

佛涅槃上堂。舉、世尊於涅槃會上、以手摩胸、告衆云、汝等善觀吾紫磨金色之身、瞻仰取足、勿令後悔。若謂吾滅度、非吾弟子。若謂吾不滅度、亦非吾弟子。時百萬億衆、悉皆契悟。

師云、黃面老子、臨涅槃時、恁麼叮嚀告誡、大似三家村裏婆子話。當時若有個漢出來道、世尊世尊、莫露醜好、自然堪報佛恩、免令後代兒孫遞相鈍置。何故。犀因翫月紋生角、象被雷驚花入牙。

結夏小參。以大圓覺、爲我伽藍、身心安居、平等性智。釋迦老子、於無事中生事、撒土拋沙、致令西天東土、遞相效尤、謂之九旬禁足三月安居、大似守株待兔。沒量漢、終不向好肉上剜瘡、自然獨步大方、高超佛祖、放曠平常、隨時任運。管甚夏之與秋、結之與解。於一切時一切處、無一絲毫隔礙、無一絲毫滲漏、不落見聞覺知、不假思惟分別。所以德山入門便棒、臨濟入門便喝。如此施爲、不妨峻峻、更無道理與他湊泊、亦無玄妙與他解會。只如僧問趙州、如何是道。州云、牆外底。僧云、不問者箇道。州云、問甚麼道。僧云、大道。州云、大道透長安。師云、者老漢、爲人徹困、敗缺不少。若向徑山門下、直須倒退三千。何故。萬緣不到無心處、至了渾如井觀驢。復舉、德山小參示衆云、今夜不答話、有問話者、與三十棒。時有僧出禮拜。德山便打。僧云、某甲話也未問、因甚便打。山云、汝是甚處人。僧云、新羅人。山云、未跨船舷、好與三十棒。輒成一頌、舉似大衆。德嶠威風劍凜霜、新羅僧不顧危亡、無毛鍊鶴衝霄漢、赤脚波斯入大唐。

廣智先師忌拈香。者老漢、無面目、問東答西、指南話北。野狐百丈、埋作一坑、栗棘金圈、置之一壁。神仙妙訣、父子不

傳、師子迷兒、懸厓反擲。一年一度一爐香、千古萬古空相憶。上堂。一年十二個月、九個月游州獵縣、玩水觀山。看來有甚了期。安居三個月、正好休去歇去。山僧恁麼告報、也是泥裏洗土塊。遂擊拂子。薰風自南來、殿閣生微涼。

解夏小參。佛說一切法、爲度一切心。我無一切心、何用一切法。既無一切心、不用一切法。與麼則大光明藏、圓覺妙場、分明八字打開、普請諸人證入了也。有甚長期短期結制解制。禪和家、未到無心田地、被釋迦老子、將這一個尅期取證底圈續子、一縛縛住、九十日內、二六時中、行住坐臥、動靜施爲、無自由分。更要覓佛覓心覓禪覓道、政是無事生事。豈不見、趙州道、我見千百億個漢、盡是覓作佛底人、中間求個無心道人不可得。雲門道、和尚子莫忘想、山是山水是水、僧是僧俗是俗、拄杖子但喚作拄杖子、燈籠但喚作燈籠。若約山僧見處、趙州雲門、正是無事中生事、無言中顯言、無葛藤處打葛藤、無荆棘處栽荆棘。汝等諸人、向者裏截斷露布、透過荆棘叢林、與他從上諸佛諸祖、把手共行、方有自由分。豎拂子云、千峰勢到岳邊止、萬派聲歸海上消。復舉、僧問睦州云、高揖釋迦、不拜彌勒時如何。州云、昨日有人問趁出了也。僧云、和尚恐某甲不實那。州云、拄杖不在、若帚柄聊與三十。後來雪竇顯和尚云、睦州只有受壁之心、且無割城之意。師云、大小雪竇錯下名言、殊不知睦州捨己從人、者僧小出大遇。卓拄杖下座。中秋上堂。人人盡道天上月、從古有圓還有缺、爭知道無圓缺、

一片清光滿寥沈。無物堪比倫、教我如何說。喝一喝。切忌證龜作鱉。

蔣山水陸會陞座。垂語云、天無私蓋、地無私載、山河大地、盡被恩光、草木昆蟲、咸資化力。故我今上皇帝、混一區宇、統御萬邦、遠征朔漠、以安兆民、思念將師卒伍。冒鋒鏑、罹飢渴、溺水而亡者、惻隱之心、期於薦拔。如唐太宗之征遼、愍諸功臣、修建淨因、是也。遂於洪武四年冬季、就鐘山啓建水陸法會。爰命臣僧泐等、淨身心而觀想、務律行以精嚴、作諸佛事、以解冤愆、俾其覺悟真性、入我道場、乘佛威神、由斯解脫。是日法筵盛啓、披閱大藏經文。現前一衆、讀此經者、使一切衆生達諸佛之本源、明自己之心地。然心地法門、人人本具、個個現成、在聖不增、在凡不減。教中道、若人欲了知三世一切佛、應觀法界性、一切惟心造、十法界中、皆由此心善惡發現。今世間之人、不明心地、自生退屈、如獄卒屠兒。自言、我既作惡、不可修行。殊不知、正好修行、獄卒矜卹罪囚、不致橫生苦楚。此獄卒之修行也。屠兒雖云業在其中、勢不可避、但能少貪財利、不致濫殺。佛在世時、有一廣額屠兒、聽佛說法、放下屠刀、立地成佛。此屠兒之修行也。至於刑官、處心平凡、依准法令、決讞罪囚、不致枉濫。如漢之張釋之、爲刑官、天下無冤民。此刑官之修行也。至於軍將、爲國宣力、開疆拓土、南征北伐、當元季之亂、羣雄並起、互相殺戮。我朝諸將、奉敷國威、所至輒克、功安社稷、利濟生民。所謂以

兵止亂、以仁勝殘。如漢光武時、鄧禹爲大將、自言未嘗妄殺一人。此將軍之修行也。若帝王之修行也、神武不殺、仁及昆蟲、混四海爲一家、拯生靈於塗炭、無一物不得其所、無一民不被其澤。昔宋文帝時、有僧名求那跋摩。召至問曰、朕欲持齋不殺、未獲所願。跋摩對曰、帝王所修、與匹夫異。帝王以四海爲家、兆民爲子。出一嘉言、則天下咸悅、布一善政、則人神以和。以此持齋、齋亦大矣、以此不殺、德亦多矣。此帝王之修行也。如上所述、皆是自家心地法門、賢愚貴賤、同乎一塗、佛與衆生、了無二致。以之經邦定國、以之忠君愛親、以之修身齊家、以之正心誠意。無一塵而不具足佛事、無一法而不證入菩提。恢恢焉、晃晃焉、高超象帝之先、獨步毘盧之頂。然雖如是、更聽一偈。善哉此大法會中、一切衆生蒙利益、虛空可量風可繫、無能盡說勝功德。

徑山語錄終。

京都天界善世禪寺語錄

門人 行忠 慧和 等編

師於洪武五年壬子正月十九日入寺。

踞室。奪旗偃鼓、謾逞威雄、打鳳羅龍、徒誇好手。直饒千聖出頭來、也須望厓而退。卓拄杖云、車不橫推、理無曲斷。

山門疏。是家裏人、說家裏話、衲僧鼻孔、大頭向下。諸山疏。鐘阜龍蟠、石城虎踞、一句全提、雲開岳露。

陸座垂語。一手不獨拍、兩手鳴擗。去此二塗、還有格外節拍相應者麼。問答不錄。師復云、佛法付囑國王大臣有力檀那、可使靈山正脉祖祖相傳、少室眞乘燈燈續焰。一任輝天而鑑地、從教耀古以騰今。皇圖與佛道齊昌、帝運並法輪同轉。塵塵不昧、刹刹全彰、人人頭頂青天、箇箇腳踏實地。到此、上無攀仰、下絕已躬、常光現前、壁立萬仞。自然堯風蕩蕩、舜日熙熙、野老嘔歌、漁人鼓舞。豎拂子、召大衆云、正恁麼時、畢竟承誰恩力。天上有星皆拱北、人間無水不朝東。敍謝不錄。復舉、育王佛照老祖、參大慧和尚、因入室次、慧舉起竹篋問云、喚作竹篋則觸、不喚作竹篋則背時如何。照云、請和尚放下竹篋、與學人相見。慧放下竹篋問云、如何相見。照云。伎倆已盡。慧云、者漢又來老僧頭上行。照云、也是尋常行履處。便禮拜。師云、妙喜老人、將者一條黑漆竹篋、掀翻海岳、佛祖乞命。被佛照輕輕拶著、直得冰消瓦解。若新天界當時見他道放下竹篋、便與一時打出、免致後代兒孫忘生卜度。雖然、不因柳毅傳書信、那能得到洞庭湖。

當晚小參。金剛正體、洞徹十虛、妙明元心、含攝萬有。三世諸佛、得之成無上道、轉大法輪。歷代祖師、得之說法行道、應機接物。大衆得之、運自神通、圓修梵行。山僧得之、裁長補短、就下平高。龐居士云、十方同聚會、個個學無爲、此是

選佛場、心空及第歸。老龐道個心空及第歸、也甚奇怪、只是俗氣未除。若向臨濟德山門下、未免目瞪口呆。雲門大師道、平地上死人無數、過得荆棘林、方是好手。直饒語路縱橫、要且無自由分。明眼漢、到這裏、若作佛法商量、正是平地喫交。不作佛法商量、坐在荆棘林裏。且道、畢竟如何委悉。卓拄杖云、鶴有九臯難翦翼、馬無千里謾追風。

上堂。大人具大見、大智得大用。有時孤峰頂上盤結草菴、呵佛罵祖。有時十字街頭橫拖布袋、接物利生。法無定相、遇緣卽宗、法隨法行、法幢隨處建立。故我應詔、諸尊宿不起于座、逕造京都。動若行雲、止猶谷神、出沒卷舒、縱橫無礙。高提祖印、發揮格外真機、橫按鑊錙、截斷從前露布、洗光佛日、啓沃聖心。唐太宗詔國一出山、闡敷心要。宋太宗召贊寧詣闕、敷演教乘。古之今之、無二無別。正與應時、畢竟如何話會。銀山鍊壁無回互、草偃風行得自由。

蔣山法會、爲鬼神說法。大智非名、真空絕迹、佛佛授手、聖聖相承。無邊刹海、自他不隔於毫端、十世古今、始終不離於當念。良由迷眞逐妄、背覺合塵、流轉三塗、無有休息。故我大覺世尊、興慈運悲、濟幽拔苦。然慧燈而普照、駕寶筏以遐超、洪惟佛心天子、思念將士爲國殞身、愁然在懷、無忘興寢。遂於鐘山大闡法會、看誦大藏經文、修設水陸法事。是夕天界善世禪寺住持臣僧宗泐、欽承聖旨、陞于此座、舉揚第一義諦、起度汝等幽靈。蓋因諸佛子等、或嬰鋒鏑而亡、或遭疾病而死、

或顛踣於道路、或漂溺於波濤、或殞歿於飢寒、或勞斃於工役。黃沙白草、魂魄何依、朔雪炎風、呻吟不已。咸乘佛力、來赴法筵。今說法以開汝眞性、復施食以濟爾飢虛。一念知歸、變炎火爲青蓮、卽同本得、轉洋銅爲甘露。經云、一切衆生、皆具如來妙圓覺心、本無菩提及與涅槃、亦無成佛及不成佛。於斯明得、何冤愆而不解、何業障而不除。捨身受身、得大自在。其或未然、秉至誠心、聽吾說偈。衆罪如霜露、慧日能消融、此心無所住、業障本來空、處處明眞智、頭頭顯異功、衆生與諸佛、究竟體皆同。

佛涅槃上堂。淨法界身、本無出沒、大悲願力、示有去來。傳大士道、空手把鋤頭、步行騎水牛、人從橋上過、橋流水不流。驀拈拄杖云、汝等諸人、向甚麼處、見釋迦老子。卓一下。水向石邊流出冷、風從華裏過來香。

上堂。拈拄杖云、三世諸佛也恁麼、六代祖師也恁麼、天下老和尚也恁麼。天界拄杖子却不恁麼。何故。字經三寫、烏焉成馬。卓拄杖下座。

上堂。江南兩浙、春寒秋熱。堂前露柱鬧啾啾、陝府鐵牛吞却月。文殊起佛見法見、眨向二鍊圍山去也。

冬至上堂。一陽來復、日南長至。頭上是天、脚下是地。無位眞人、正法眼藏、卽不問。諸人向父母未生前、道取一句來。元旦上堂。元正啓祚、萬物咸新。上苑梅華照雪、官街柳色迎春。山僧應時納祐、詣闕慶賀良辰。歸來護龍河上、打鼓普告

諸人。遂擊拂子。石牛橫古路、一馬生三寅。

元霄上堂。我見燈明佛、本光瑞如此。以是知今佛欲放大光明。三世諸佛、六代祖師、天下老和尚、於光明藏中、說法行道、接物利生。現前大衆、於光明藏中、行住坐臥、不離禪定。新舊知事、於光明藏中、荷負衆僧、成就庶務。新請侍者、於光明藏中、燒香問訊、動合禮儀。慕拈拄杖。山僧拄杖子、橫拈倒用、打雨敲風。且道、在光明藏中、不在光明藏中。遂卓拄杖下座。

上堂。今朝四月初一、掛搭禮儀講畢、爲報學佛道流。結制安居漸逼、長連牀上打坐。箇箇銀山鐵壁、驀然拶透重關。無位真人面赤、明如日黑似漆。風吹不入、雨洒不濕。驚起露柱燈籠、夜半啾啾唧唧。寒山拍手笑呵呵、臨濟未是白拈賊。喝一喝。

佛誕上堂。我佛如來駕願輪、誓欲空盡衆生界、久遠劫來成正覺、憫念五濁示降生。無憂樹下出母胎、九龍噴水浴聖體、周行七步顧四方、指天指地我獨尊。此云眞我非我人、一切無有如我者、四十九年三百會、說此眞我不能盡。後二千年逢誕辰、比丘灌浴紫金聚、普願末世諸有情、同證淨智功德海。

結夏上堂。一切法不生、一切法不滅、摩竭行此令、虛空中釘橛。爭似護龍河、人人自超越、了無長短期、何有解與結。拾得問寒山、者個別不別。金剛喫蒺藜、露柱流出血。

端午上堂。去歲逢端午、今年亦復然。家家縣艾虎、處處鬪龍

船。惟有禪家子、常居淡泊邊、一心無起滅、四序任推遷。解夏上堂。今朝七月十五、一句全賓全主、解却布袋頭開、一任東去西去。無佛處急走過、有佛處不得住。三千里外、逢人不得錯舉。喝一喝。

中秋上堂。舉、盤山積禪師示衆云、心月孤圓、光吞萬象、光非照境、境亦非存、光境俱亡、復是何物。輒成一頌、舉似大衆。心月孤圓、光吞萬象、太古風清、康衢擊壤。老胡未西來、大道平如掌。堪嗟堪笑是何物、矢上加尖太撈攘。

上堂。娑婆世界、以音聲爲佛事、香積世界、以香飯爲佛事、天界以分衛爲佛事。者三種佛事、我此現前一衆、悉能成就。拈拄杖云、且功不浪施一句、作麼生道。遂卓一下。水流元在海、月落不離天。

金山心海和尚遺書至上堂。大用縱橫、截斷聖凡塗轍、大機普應、拔除生死根株。全心卽佛、全佛卽心、無一處而不具、無一理而不彰。故我金山和尚、全體與麼來、全體與麼去。六十二年、四會說法。神機獨脫、妙用無方、化權旣周、能事畢矣。慕拈拄杖畫一畫云、有伴何妨却再來、了却先師舊公案。

開爐開新浴室上堂。火爐頭、浴室內、八字打開、一團和氣。直得舜若多神、悟箇妙觸宣明、成佛子住、憍梵鉢提、說道性空眞火、周遮法界。一非同、二非異。金香爐下鍊昆崙、刹竿頭上煎餽子。

達磨忌拈香。者碧眼老胡、航海東來、隻履西去、未免自起自

倒。直指人心、見性成佛、也是隔靴抓痒。致令後代兒孫、被他殃害不少。以香擊爐云、不是苦心人不知。

客至上堂。高亭訪德山、望刹竿便去、先行不到。興化遇同參、打下法堂、末後太過。天界今日幸遇道伴到來、未免烹露地牛、唱少林曲。非圖節拍分明、且要主賓契合。拈拄杖云、會麼。

寒山掃地接豐干、誌公不是閒和尚。靠拄杖下座。

冬至上堂。一陽來復、萬彙昭蘇、魯公臺上書雲、漢女宮中添線。若作世諦流布、塞壑填溝、更作佛法商量、墮坑落漚。何故。車不橫推、理無曲斷。

上堂。仲冬嚴寒、天寒人寒。地爐頻著火、收足上蒲團。現成有一句、大雪滿長安。拍禪床下座。

首座赴會歸上堂。法無定相、遇緣卽宗、法隨法行、法幢隨處建立。雲門大師道、平地上死人無數、過得荆棘林是好手。時有僧云、與麼則堂中上座有長處也。門云、蘇嚕蘇嚕。只如太師韓國公、請堂中第一座、領衆三千、往赴濠梁法會、爲鬼神說法。現前一衆、聞法而歸。且道、首座是有說邪、無說邪。

有長處邪、無長處邪。諸人有聞邪、無聞邪。驀卓拄杖云、倒握金鞭問歸客、夜深誰共御街行。

上堂。釋迦老子、於臘月八夜明星現時、悟無上道、迺云、奇哉奇哉、一切衆生、具有如來智慧德相、但以妄想執著、而不證得。輒成一頌、舉似大衆。正覺山前眼豁開、旄頭星現果奇哉、六年苦行今宵滿、曠劫無明當下灰。

除夜小參。靈山拈華、迦葉微笑、如來無禪。少林面壁、神光安心、祖師無意。若曰佛佛授手、祖祖相傳、政是斫水求痕、捫空揣骨。伶俐漢、到者裏、上無攀仰、下絕己躬、自然常光

現前、壁立萬仞。楊岐對白雲發笑、攬出心肝、北禪烹露地白牛、笑破人口。所以巖頭道、從門入者、不是家珍、直須一一從自己胸襟流出、方能蓋天蓋地。拈起也珠回玉轉、放下也海晏河清。無一法不是眞如、無一物不歸妙用。雖然如是、作麼生是知時識節一句。拈拄杖卓云、一年將盡夜、萬里未歸人。復舉、五祖演和尚云、祖師說不著、佛眼覷不見、四面老婆心、爲君通一線。便下座。師云、者老漢、大似靈龜拽尾、拂迹成痕。天界卽不與麼。卓拄杖下座。

正旦上堂。新年頭佛法、舉意便知有、洗面摸著鼻、喫飯開却口。水底掛燈毬、空中飄石臼、春色滿皇州、明明三八九。

敍謝頭首上堂。夢往天宮說法、是首座分上事。演出一大藏教、是藏主分上事。客來須看、賊來須打、是知客分上事。終日擇火拈香、是殿主分上事。三呼三應、是侍者分上事。作麼生是諸人分上事。遂卓拄杖云、但將飯向無心盃、自有人扶折脚鐺。百丈忌拈香。豎拂挂拂、神出鬼沒、併却咽喉、捫空揣骨。五百生來墮野狐、胡須赤對赤須胡。

上堂。今朝又是三月一、天曉日從東畔出、柳綠花紅遶鳳城、明眼衲僧難辨的。了無一法可當情、幸遇同參相委悉。驀拈拄杖。且道、委悉箇甚麼。卓一下云、西天胡子沒髭鬚、無位眞

人面門赤。

淨慈竹庵和尚至上堂。舉、芙蓉訓禪師、訪同參實性大師。實性乃陞堂、以右手拈拄杖、倚左邊良久云、此事若不是芙蓉師兄、也大難委悉。便下座。師云、實性與芙蓉相見、固是作家檢點將來、一場敗缺。天界今日與淨慈相見、更不起模畫樣、只貴平常。蒲團相對坐、眼上兩眉橫。

結夏小參。信士張天麟、設供報親。垂語云、言發非聲、聲聲無礙、色前不物、物物全彰。淨裸裸沒承當、赤洒洒絕回互。寬同法界、細入鄰虛、無一處而不周、無一塵而不具。盡大地是箇解脫妙門、盡大地是箇圓覺伽藍。一明一切明、一了一切了、一見一切見、一用一切用、無生死可捨、無涅槃可證。所以道、了了見無一物、亦無人亦無佛。大千沙界海中漚、一切聖賢如電拂。茲辰禁足安居、今夜因齋慶贊。三輪空寂、道絕功助、九十日內、尅期取證、各各好與三十棒。大眾且道、是賞伊、是罰伊。卓拄杖云、參。復說偈曰、我觀一眞法界海、清淨不離常湛然、所有諸佛及衆生、平等攝入無遮礙。或處生死而不迷、或證涅槃而不住、或入塵勞而不染、或生極樂而不退。善哉信士張天麟、從信法門而出生、於一切處行眞實、是故能捨難捨者。以此報親無可報、以此懺罪無可懺。至心歸命佛法僧、存歿彼彼獲如意。彈指圓成八萬門、一超直入如來地。端午上堂。一二三四五、沒諍訛處爲君舉、五四三二一、鍊痰藜鎚鐺面擲。抹過前三與後三、明眼衲僧數不出。暮拈拄杖云、

信手是藥采將來、頂門失却眼一隻。卓拄杖下座。

廣智先師忌拈香。就源爲國師設齋、不斷世諦。南泉爲馬祖作忌、有伴卽來。龍河今日遇先師忌辰、未免隨例攀條去也。以香扣爐云、恩深轉無語、懷抱自分明。

上堂。舉、應庵和尚示衆云、禪禪、更不相煎、坐底自坐、眼底自眠。大家安樂無法可傳。禪禪、洞山五位、臨濟三玄、大年三十夜、脚踏地頭頂天。禪禪、不直半文錢、海枯終見底、人死脚皮穿。應庵老漢、口似縣河、也只說得一半。者一半、山僧今日對衆舉揚、更不囊藏被蓋、且要與此老把手共行。禪禪、火著油煎、飢來喫飯、困則打眠、神仙祕訣、父子不傳。禪禪、妙中之妙、玄中之玄、達磨不來東土、二祖不往西天。禪禪、黃菊綻金錢、大蟲裹紙帽、寶八布衫穿。爲壁峰和尚對靈小參。撲落非他物、縱橫不是塵、山河及大地、全露法王身。大梅聞颺鼠聲、末上賣峭。普化索木直掇、太殺風流。爭如我壁峰和尚、全體與麼來、來本不來、全體與麼去、去本不去、來時孤鶴冷翹松頂、去時片雲忽過人間。所以道、無邊刹境、自他不隔於毫端、十世古今、始終不離於當念。無生死可斷、無涅槃可求、上不見有諸佛、下不見有衆生、中不見有自己。恢恢焉、晃晃焉、高超象帝之先、獨步毘盧之頂。直得護龍河上、白浪滔天、金陵城中、清風匝地。拈拄杖云、諸人還見此老垂手處麼。鍊船無底踏翻去、依舊東山水上行。復說偈曰、大善知識出于世、如淨寶月行虛空、其光普照靡不

周、衆生離暗得明了。不違本願度有情、演說無上至妙道、或語或默或棒喝、隨機大小而開示。末法衆生少正信、入於邪見之稠林、身心放逸不熏修、是故示以修行道。以精進力攝懈怠、以持戒力攝毀犯、以布施力攝慳貪、以慈忍力攝瞋恚、以禪定力攝散亂、以般若力攝愚癡。種種方便開其心、衆生視之如慈父、化權既戢趣寂滅、故示無常策放逸。四衆哀號失依怙、苦海無邊法舟傾、火光三昧自焚身、設利如菽不可計。最後一段勝光明、大聚落中作佛事、善護今於遺像前、運至誠心修供養、餽膳湯茗香華燈、比丘旋遶作梵唄。持此功德報師恩、復用供養佛法僧、功德廣大不思議、於一念頃悉具足。我今對衆爲敷揚、諸佛諸祖同一舌、惟願法界諸含識、同住如來寂滅海。

解夏小參。山僧九十日、箋註楞伽、不得與汝諸人東語西話。然於大寂滅海、恆與諸人同出同入、初無絲毫差別之相。昔有一老宿、一夏不會與師僧說話。有僧自歎云、我只恁麼空過一夏、不敢望和尚說佛法、得聞正因兩字也好。老僧聞云、闍黎莫誓速、若論正因、一字也無。道了扣齒云、適來無端不合與麼道。鄰壁老宿聞得乃云、好一釜羹、被兩顆鼠糞汙却。叢林盡謂、者兩箇老漢、太殺絕物。殊不知千鈞之弩、豈爲鼯鼠發機。者僧若是箇漢、見佗纔擬開口、便與掀倒禪床、有甚麼過。諸人若也會得、九十日內、功不浪施、明朝自恣之辰、一任東去西去。若也不會、山僧拄杖子、不妨露箇消息。乃拈拄杖、卓一下云、只爲分明極、翻令所得遲。

開爐上堂。今朝十月旦、百事都未辨、窓破欠紙糊、爐空無獸炭。山僧方病起、隨時旋排遣、爲報參禪人、飢來好喫飯。擊拂子下座。

闍仲猷·勤無逸、使日本迴上堂。佛化與王化竝行、眞諦與俗諦雙舉、扶桑東畔打鼓、大明國裏陞堂。爲復神通妙用、爲復法爾如然。不是少林宗旨、亦非天台教觀。遂卓拄杖云、甜瓜徹蒂甜、苦瓠連根苦。

瑞巖恕中和尙至上堂。舉、臨濟因趙州到院、方洗脚次、濟便問、如何是祖師西來意。州云、恰遇山僧洗脚。濟進前作聽勢。州云、會即便會、鶻啄作甚麼。濟便歸方丈。州云、三十年行脚、今日錯爲人下注脚。師云、臨濟趙州、固是兩員老將、一人埋兵挑戰、一人遇變出奇。總未見有勝負在。今日空室和尚、與天界相見。雖則無問無答、自然頭正尾正。諸人還會麼。以拂子擊禪牀云、不因夜來鴈、爭見海門秋。

上堂。說心說性、說妙說玄、總是野狐涎唾。行棒行喝、擊杖舞筭、亦是鬼家活計。卓拄杖云、毘婆尸佛早留心、直至如今不得妙。

上堂。今朝三月旦、過去已滅、未來未至、現在無住、從無住本、立一切法。擊拂子云、大蟲舌上打鞦韆、螞蟥眼中放夜市。佛誕上堂。未離兜率、已降王宮、未出母胎、度人已畢。一盲引衆盲。又云、天上天下唯我獨尊。亦是堞生招箭。雲門云、我當時若見、一棒打殺。爭奈棒頭太短。驀拈拄杖卓云、瞿曇

雲門、鼻孔總被山僧拄杖子一串穿却了。諸人若也未委、且請佛殿裏隨例浴佛諷經。

金山甘露諸山至上堂。智光普照、爍迦羅眼洞明、大音希聲、師子筋琴迭奏。有權有實、有縱有奪、有主有賓、有照有用。不作奇特商量、不作玄妙解會、自然雙放雙收、到處爲祥爲瑞。所以道、撞著道伴交肩過、一生參學事畢。拈拄杖卓云、木人把板雲中拍、石女含笙井底吹。

信士張覺宗薦亡考請小參。釋迦老子道、始從鹿野苑、終至跋提河、於其中閒、未嘗談一字。如此則一大藏教、從甚處得來。諸人會得者箇道理、方具看經眼目、於一切處、有少分相應。豈不見、昔有一婆子、請趙州看經。州下地遶禪牀一匝。婆云、比來請和尚看全藏、如何只轉半藏。趙州如此看經、直是省力、肚皮裏不曾著一箇元字脚。具真正解脫知見、頂門上輝大寶光、脚跟下壁立萬仞。信知一經一偈、一句一字、皆從自己胸襟流出、蓋天蓋地。以之出生死愛纏、以之破塵勞大夢、以之酬父母養育之恩、以之報佛祖護念之德。恁麼會去、則今日張覺宗所修薦嚴佛事、一期畢矣。擊拂子云、還委恁麼。覷面擊開無盡藏、頭頭湧出夜明珠。復舉、法華經云、我今爲汝保任此事、終不虛也。汝等當勤精進、行此三昧。後來黃龍和尚云、精進卽不無、諸人作麼生是三昧。良久云、迦葉糞掃衣、價直百千萬、輪王髻中寶、不直半文錢。師云、黃龍恁麼批判、也是見錮鑿著生鍊。雖然、天界見處、亦要諸人共知。迦葉糞

掃衣、不直半文錢、輪王髻中寶、價直百千萬。

潘信士爲亡考設齋小參。具足凡夫法、凡夫不知。具足聖人法、聖人不會。聖人若會、卽是凡夫。凡夫若知、卽是聖人。不可以知知、不可以識識、不可以語言造、不可以寂默通。所以教中云、是法非思量分別之所能解。祖師道、但盡凡情、別無聖解、於此薦得、凡夫法卽是聖人法、聖人法卽是凡夫法。有何生死可斷、涅槃可求、煩惱可除、菩提可就。紅塵堆裏、妙用縱橫、十字街頭、卷舒自在。無一絲毫罣礙、無一絲毫染著、自然跨色騎聲、超今邁古。敢問諸人、且道、潘覺通居士、卽今是生邪是死邪、不生邪不死邪。拈拄杖卓云、畢竟水須朝海去、到頭雲定覓山歸。復舉、甘贄行者、入南泉設齋、黃蘗爲首座。贄請施財。蘗云、財法二施、等無差別。贄昇錢出去、須臾復云、請施財。蘗云、財法二施、等無差別。贄乃行施。師云、甘贄弄假成真、黃蘗弄真成假。爭如今日潘德和入寺爲亡考設齋。總無許多伎倆。遂擊拂子云、一等共行山下路、眼頭各自看風煙。

壁峰和尚忌唇陞座。握金剛王寶劍、斷生死根株、縣大智慧日光、破無明窠窟。全機普應、迥絕蹤由、大用現前、不存軌則。爍迦羅眼、頂上放大光明、摩醯首羅、面前現奇特相。何止猛虎穴裏橫身、萬仞峰頭著脚。放行把住、總不由佗、出沒卷舒、得大自在。所以道、處生死流、驪珠獨耀於滄海、踞涅槃岸、桂輪孤朗於碧天。直是邁古超今、光前絕後、不與萬法爲侶、

不與千聖同途。巍巍堂堂、皦皦皦皦、無生無滅、無去無來。然雖如是、且道、壁峰和尚入滅以來、卽今在什麼處。擊拂子云、當處分身千百億、人門天上更無雙。復舉、白水仁禪師因洞山忌辰設齋次、有僧出問云、供養先師、未審先師還來也無。仁云、更下一分供養著。師云、者僧被白水一拶、直得口似匾擔。好細看來、白水也是看樓打樓。今日比丘祖全、爲壁峰和尚設齋。不問來與不來、一味修設供養。山僧因齋慶贊、輒成一頌。金剛正體堂堂現、散在春風百草頭、堪笑相逢不相識、却於言下覓蹤由。

水陸會爲鬼神說法。妙眞如性、直下圓成、大解脫門、當處具足。以一具足則一切具足、以一圓成則一切圓成。如日月並明、與虛空同壽、亘今亘古、非異非如。諸佛悟之、而登覺道、超越世間、得大自在。衆生迷之、而流浪生死、從劫至劫、永縛永纏。原夫一念之差、遂有聖凡之別。所以道、毫釐繫念、三途業因、警爾情生、萬劫霸鎖。皆由一心所生、不從佗處而得。故我大覺世尊、興無緣慈、作不請友、憫衆生之沈溺、作苦海之津梁。濟其鬼趣之幽、拔其地獄之慘、如父之愛子、開諸方便。是夕則有設齋信女王氏善慈、運平等心、行殊勝行、設諸種種飲食、作諸種種佛事、無非濟汝飢虛、開汝眞性。一入法會、則夙障頓消、一霑法味、則苦輪斯脫。諸佛子等、於剎那間、迴光返照、便知是心是佛、是心作佛、心外無佛、佛外無心。祖師道、處處眞處處眞、塵塵盡是本來人、眞實說時聲不

見、正體堂堂沒却身。至於天堂地獄、人畜鬼趣、九有四生、乃至依草附木、滯魄孤魂、無不皆眞。始由迷眞逐妄、今乃返妄歸眞。高超寂滅之場、永趣菩提之岸、豈不偉歟。其或未然、山僧拄杖子、爲汝通箇消息。拈拄杖卓云、百寶莊嚴無相身、一超直入如來地。

天界語錄卷終。

京都龍泉庵助緣比丘 吉祥。

驍騎右衛寓居助緣善信芳名于後。

朱福眞・王福得・王文殊奴。

尤妙通・蕭妙眞・卞妙果。

全室和尚語錄卷上

全室和尚語録 卷第二

偈頌歌序書

〔偈頌〕

示江西圓禪人。

諸佛未嘗明說破、祖師言下不會該、圓師果欲求端的、待汝西江吸盡來。

贈閩僧琦禪人。琦之師有送行話。

曾郎說與謝三郎、此事逢人莫舉揚、一曲漁歌江上路、榕陰如蓋午風涼。

示聞禪人。

聞聞聞處要聞心、聞到真聞不是音、昨夜石頭城下泊、數聲寒鴈落江潯。

贈道場寧藏主。

上人親自道場來、寶藏無關八字開、踏破草鞋江上路、更於何處有疑猜。

送真禪人。

一處真兮處處真、眼中童子面前人、龍河水急難棲泊、拄杖橫擔別問津。

示顛殿主。

如何是佛殿裏底、問處分明答處奇、三世如來不知有、燈籠露柱笑掀眉。

贈蔣山英藏主。

撼碎如來藏裏珠、鏡容大士笑軒渠、虎丘凜凜英風在、誰道當今繼者無。

示慧禪人。

坐夏鍾山今已滿、尅期取證事如何、曉來一陣江天雨、添得新涼入戶多。

示禮禪人。

禮拜看經猶是妄、坐禪成佛亦爲貪、寸心放下如泥去、動著依然落二三。

示印禪人。

祖師心印鐵牛機、一句當頭剗百非、潦倒雲門都不會、向人道箇力口希。

示華禪人。

榮華好似眼前華、寂寞真爲道者家、破衲天寒修補了、三條椽下足生涯。

示輝禪人。

輝天鑑地是何物、大藏小藏談不得、出入常在汝面門、無位真人赤骨律。

固庵號、爲貞長老作。

世界壞時此不壞、成時非古住非今、泥牛入海無消息、門外落花春又深。

送就禪人還山東。洞宗人。

成就慧身須烈漢、揭翻五位絕功勳、龍河一宿便歸去、鍊錫橫飛岱岳雲。

送玉禪人。

石中有玉淨無瑕、剖出須還老作家、不動脚跟親薦得、三千里外摘楊華。

次韻寄育王約之兄。

先師法道日孤危、賴有同參大總持、倒握吹毛全殺活、鄮峰坐斷令行時。

本源號、爲源藏主作。

一句無私達本源、黃河九曲出岷崙、當陽撼碎摩尼寶、三世如來總滅門。

送蔣山隱藏主。

大藏小藏從此出、千重百帀隱彌彰、鍾山踣跳匡廬舞、翻著襪衫歸故鄉。

送剛禪人禮補陀。

塵塵刹刹是觀音、剛要補陀巖畔尋、踏徧春山無限好、一聲啼鳥落華深。

示印禪人。

祖師心印鍊牛機、錦縫重重妙入微、去住兩途俱印破、青山不礙白雲飛。

示坦侍者。

坦然不怖於生死、燈籠吞却五須彌、布毛吹起便悟去、又是重

安眼上眉。

示金山隱藏主。

酬僧一默隱彌彰、驚起法身北斗藏、萬象明明該不得、大江東下接天長。

示承天智維那。

心不是佛智非道、一句渾侖擘不開、驀地桶箍連底脫、雙栽依舊碧崔嵬。

無言號、爲妙講師作。

摩竭向來曾掩室、淨名不二復何談、揭翻教海求玄妙、開口依然落二三。

第一座性源禪師、領衆三千、濠梁說法歸、說偈二首賀之。

濠梁說法利人天、龍象三千擁法筵、此日大行摩竭令、勝侂黃蘗在南泉。

天寒歲晚領徒歸、依舊相看眼似眉、無孔筵逢穩拍板、少林一曲許誰知。

示禮知客。

待客迎賓有禮儀、木蛇吞却石烏龜、直饒智眼洞明了、腦後依然欠一椎。

送莊藏主回越。

一策江東又浙東、往來直是絕行蹤、秋風萬壑千巖裏、樹葉經霜也自紅。

贈蔣山禎藏主。

一大藏教是切脚、東山道箇鉢囉孃、等閒踏著通天竅、百草頭邊不覆藏。

示紹侍者。

既隆釋種紹門風、向上玄關有路通、了了常知言不及、楓林九月帶霜紅。

示居侍者。

紙襖鈔來無一字、布毛吹起眼生華、凡情聖解俱拈却、脫體風流出當家。

送黃龍□侍者。

黃龍三關解透過、佛手驢脚若爲呈、金雞啼上闌干曲、一段風光畫不成。

參方須具超方眼、一法元無作麼觀、江北江南三月裏、楊花吹作雪漫漫。

贈文藏主。

一大藏教是切脚、正文一句絕偏圓、當陽拈出無人會、雨過燕山翠插天。

示始侍者。

妙體如如絕異同、本來無始亦無終、金雞啼上闌干曲、笑倒龍河六十翁。

示儲生鍊壁。

鐵壁銀山拶透時、皇都春滿百花枝、好將此個眞消息、到處逢人舉向伊。

示永知客。

一得永得無退轉、山河大地絕纖塵、大陽寺裏顯知客、慚愧旁觀匿笑人。

示默庵居士。

淨名杜口復何言、覲面全開不二門、一自泥牛鬪入海、更無消息與人論。

義山號、爲藤居士作。

第一義諦如何舉、輕似鴻毛重似山、多口維摩酬一默、華根本艷體元斑。

示刀鐸陶生結緣淨髮。

衲僧頂額上一著、搆得分明手眼親、直下不存毫髮許、此時方是報恩人。

示鄧哲庵居士。

少年聽教復參禪、十字街頭颺碌磚、打波虛空成粉碎、吳山楚岫翠相連。

道山。

心非佛兮智非道、水是水兮山是山、四七二三猶懨懨、是何人得到其閒。

不生不滅。

不生不滅是何法、輝天鑑地出常情、本來面目無形段、喚作眞如亦強名。

無。

趙州直截爲提持、腦後分明欠一錐、江北江南問王老、一狐疑了一狐疑。

贈上藍滿維那。

參禪無別理、貴在信心堅、一念不生處、萬緣俱泊然。桶箍薰地爆、桃萼到春妍、去去何言說、長江水接天。

贈復藏主。字本源。

入門能辨的、一句恰相當、步步通玄路、頭頭達帝鄉。本源常湛寂、寶藏自輝光、去去無言說、逢人好舉揚。

送虎丘州藏主。

虎丘隆藏主、出窟老於菟、祖位還佗續、宗綱藉力扶。出門無異轍、達者自同途、歸問雲巖叟、吾言信不誣。

示理禪人。

理到事亦到、心空法亦空、萬緣俱寢削、大用自融通。嵩少依安老、鍾山謁誌公、參堂喫茶去、更不展家風。

示空禪人。

眞性本來空、情銷妄自融、隨緣無造作、當體卽圓通。歷歷塵勞內、明明日用中、栖禪與化俗、一一見全功。

示歲侍者。

一歲復一歲、看看便白頭、莫教虛棄擲、當下合知休。碧落飛金彈、銀河輓玉毬、鹽官心太切、特地索犀牛。

示琳維那。

琳琅爲令器、巧匠琢方成、學道須精進、逢師乃發明。克賓機

獨脫、興化令全行、今日分明學、眉毛眼上橫。

示祐藏主。佐。

一默酬僧問、當機辨主賓、冰凌上走馬、北斗裏藏身。水別金沙味、茶分陽羨春、明明故鄉路、何用別尋津。

送芳維那歸吳興。

驀直苕谿路、何須較短長、有身同旅泊、無念是家鄉。直入毘盧藏、曾經法戰場、送行無剩語、萬象聽敷揚。

示湛侍者。

湛然同止水、隨處自澄圓、一宿元無意、三呼豈有傳。迴超空劫外、不離海東邊、待汝知端的、重來喫痛拳。

示心藏主。

超然了此心、樵客負黃金、撥轉如來藏、逍遙功德林。千年無影樹、一曲沒絃琴、果是英靈漢、烏藤爲賞音。

示海禪人。

性海羣生具、眞源妄境同、念生須返照、覺了不施功。雨過看山色、雲開露月容、瑞巖無定力、頻喚主人翁。

寄徑山瑩藏主。

華藏重重盡揭開、龍困白日起風雷、拈來栗棘機先擲、移得瓢苗石上栽。雪竇頓增南岳重、虎丘力挽古風回、何時遂我還山願、與子寒爐撥芋魁。

贈閩中乘禪人。

日用常行路不差、直須高駕大乘車、十方刹土皆唯我、大地衆

生盡到家。江外久遊聞雪嶠、嶺頭不度說玄沙、宗門逸格從君看、莫學常流數似麻。

贈順庵主。

建業城邊久住庵、纓頭邊事最相諳、曾從濁水探明月、復向迷途得指南。拳對趙州無一語、口呵彌勒不同龕、徑山有句如何會、道得渾侖落二三。

悼聞天鼓法師。

一聽經聲便結加、臨行更不寫伽陀、生前屢講摩訶衍、火後爭收設利羅。天鼓妙音同刹說、蓮華香國異娑婆、乃翁三昧親傳得、此段光明不較多。

贈圓通傳書記再參育王和尚。

親自江西法窟來、獨携瓶錫孰能陪、三關妙用超羣象、一道神光徹九垓。春滿龍河晴漱灑、雲開鄧嶺晚崔嵬、約翁年老機尤峻、覲面須防喝似雷。

送相藏主。

我無言說爾何求、一念無生了便休、曠大劫來常不昧、五千卷內幾曾收。扶桑枝上團團日、醉李湖邊淡淡秋、翻著襴衫行故里、不風流處也風流。

寄賀萬壽行中和尙。

緇白迎歸禪月堂、不辭老大爲敷揚、馬師列派千年盛、佛照傳宗五葉芳。無佛無魔超格外、全賓全主示平常、太湖三萬六千頃、舌底瀾翻妙莫量。

寄賀西禪聰長老。

坐斷西禪古道場、法筵龍象聽敷揚、現成公案今重舉、迅捷機鋒孰敢當。需老門庭何險峻、曾郎鄉社耿遺光、同風千里真消息、海月山雲不覆藏。

送虎丘彬提點。

眼似流星氣似虹、當機一句若爲通、展開佛手并驢脚、拈出金圈與栗蓬。鍾阜曉雲晴作朶、劔池秋水冷涵空、還鄉曲調天然別、一幅蒲帆浦口風。

用韻悼逆川和尚。

六十八年安樂法、十萬八千非去程、無古無今頂門眼、執常執斷世人情。葛樁倒地孰能起、設利落盤鑑有聲、萬乘臨軒讀遺偈、北山猿鶴亦哀鳴。

示紹侍者。

克紹門風在子身、西來祖意合留神、布單賣却猶多事、紙襖鈔來未是真。幻垢盡時寧有物、覺花開處不干春、好將此箇真消息、歸化扶桑國裏人。

示符侍者。

少年奮志離鄉國、來扣中華佛祖禪、臨濟未曾施一句、克符徒解破三玄。空中木馬蹄如鍊、海底泥牛角指天、截斷聖凡無異路、扶桑人種陝西田。

用韻贈宗藏主。

己事何勞向外尋、大光明藏是全心、卽真卽妄超名相、非異非

如邁古今。四十九年無剩語、三千里外有知音、果然打就鍍船去、一日能消萬兩金。

寄新淨慈易道和尚。

十年高致在南屏、此日開堂徇衆情、力舉叢林新法令、大弘乃父舊家聲。吹毛倒握風雷吼、宗鏡高懸日月明、千里何須寄圓相、門前湖水帶霜清。

送吾長老歸日本。

大坐牛頭啓祖關、眞燈照世古風還、一庵高臥夜堂寂、百鳥不來春晝閒。白下正提新鋤斧、日東猶憶舊家山、鍍船打就渾閑事、滿載清風不可攀。

送明藏主。

機先領旨元無旨、格外明宗豈有宗、踢倒須彌百雜碎、掀翻華藏十三重、吳頭楚尾春無際、湖北江南水拍空、老病懶能施棒喝、送行隨分展家風。

存心堂偈。

試問存心堂裏主、此堂結構自何年、根基堅實離諸幻、窓戶虛明洞八埏。未學龐公參馬祖、還同陸亘見南泉、是心了了無餘事、安住其中日晏然。

示智政藏主。

學道參禪是政事、自餘皆是錯施工、坐破蒲團晝兼夜、賣却布單西復東。日面月面佛非佛、大藏小藏空不空、更來者裏問端的、老僧近日耳雙聾。

送蔣山宣首座遊峩帽。

鍾阜曾居第二座、主賓互換機奪機、五色祥麟步天岸、金毛獅子奮全威。不離當念空三際、何用從頭剗百非、識取普賢眞境界、善財携手與同歸。

贈古澗。

香爐峰下虎溪泉、浸得闍黎鼻孔穿、山色谿聲言外旨、黃華翠竹體中玄。眞如界內原無法、正覺場中豈有禪、以字不成八不是、螭螟眼裏打鞦韆。

堅禪人求偈。

堅如鍊壁與銀山、拶破無明生死關、格外一機何指的、目前萬境總虛閒。嘉州大像垂雙足、南海波斯念八還、有甚爲人方便處、遠煩來訪白雲閒。

次韻贈徑山約上主。

井底蓬塵山上鯉、當機一拶頂門開、倒騎木馬空中去、移得瓢苗石上栽。曠大劫來元不昧、五千卷內豈能該、山翁有口如木楔、孤負闍黎到一迴。

示才侍者。

有才自可扶宗教、戰馬宜收汗血功、紙襖鈔來無法說、布毛吹起便心空。一椎打就金剛鑽、信手拈來栗棘蓬、今日再參無熱喝、免教三日耳雙聾。

次韻贈大溟高僧烈山庵居。

烈山江心一巨石、宴坐絕勝空生巖、常老又移茆舍入、善財謾

向別峰參。當如蔽日陰源樹、休羨分風上下帆、有問菴居端的意、牛頭北與馬頭南。

示蕭士銘。

蕭郎爲法叩禪林、世念何如道念深、鬧市門頭雖著脚、空王座畔早歸心。馬師解奏無絃曲、龐蘊能知太古音、直下頓空諸有相、更無消息可追尋。

贈定禪人歸楓橋。

昨日不定今日定、草偃風行摩竭令、蘇州有兮常州有、拈來塞斷衲僧口。道人參方豈等閒、師子不食鷓之殘、故鄉千里好歸去、寒山寺在楓橋灣。

日峰號偈。

金鳥飛上妙高頂、下照人間無側影、不論幽谷與高山、洞徹隱微光爛爛。義和駕車行太空、旋遶四洲西復東、好在草菴盤結處、夜半正對扶桑紅。

送石藏主歸吳。

今日不定昨日定、摩竭不曾行此令、掀翻藏海覓端倪、石人犁破軒轅鏡。龍河病翁口無舌、一句當陽爲君說、歸去西山倚石屏、太湖春水連天闊。

贈宗侍者。

四七二三無的旨、一句投機絕思議、巡廓報衆參得禪、平地無風波浪起。丈夫終不受羅籠、耳裏何曾著得水、更來南院問如何、龜毛結網三千里。

用侍者求警策。

江西湖南與麼去、出門踏著來時路、南海波斯念八還、狸奴倒上菩提樹。最初機末後句、百草頭邊體全露、今朝雨落街頭濕、山翁有語難分付。

送賢藏主往雲南行化。

便與麼去、出門踏著通玄路。不與麼去、猶勝時人三五步。頭頭物物是家珍、刹刹塵塵盡檀度。給孤獨大長者、布地黃金如土苴、彈指圓成八萬門、三輪體空無取捨。點蒼高瀆池碧、金齒焚人皆作域、千門萬戶總春風、得之不假纖毫力。道人道人善化導、昔日四川今六詔、翻著爛衫稱意歸、樓閣重重彩雲繞。

送統侍者參方。

爍羣昏統衆德、劣應身中卽尊特、既然不稟釋迦文、何用當來問彌勒。大丈夫兒誰欠少、多生只在今生了、廓然無際體全彰、一念纔生落邪道。統禪統禪無去住、又欲參方向何處、老僧也有一味禪、未舉話前宜薦取。薦不薦得不得、西來祖意無消息、順風船子下楊州、月滿霜空江水白。

示聞侍者。

聞何所聞、見何所見、馬領驢腮、日月月面。國師三喚兮、無風起迎迎之波、侍者三應兮、白日震燿燿之電。果是吾家英俊流、終不隨佗脚跟轉、龍河齒豁不關風、今日爲伊通一線。

送東林福藏主。

是福德非福德、三輪本來體空寂、不以莊嚴作勝功、灼然此事

誠奇特。一大藏教破故紙、山色溪聲無不是、夜來八萬四千偈、千里逢人休舉似。休舉似成漏泄、金剛腦後三斤鍊、今朝特地問龍河、頭痛不能爲伊說。

性菴偈、爲常首座作。

性菴性菴非小大、本自無成亦無壞、驀然突出百草頭、白牯狸奴俱領解。有時寬若太虛空、外道天魔無不在、有時窄處不容針、佛來也請居門外。者性菴甚奇怪、廓徹靈通非向背、六窓晝夜總閒閒、一道神光常不昧。謂之空、推倒百億須彌峰。謂之有、拈得鼻孔失却口。有而不有空不空、灼然不在言思中、百鳥不來春自老、落花片片隨天風。昨夜三更月滿屋、兩個泥牛忽相觸、碧眼胡僧笑點頭、十地聖人隔羅縠。

洞然、爲徹藏主作。

此事洞然明白了、兩眼豁開天地曉、珊瑚枝上月團圓、無影樹頭日杲杲。昔日疑情未泮時、黑漫漫地常如癡、覺天無雲頓昭廓、千年暗室生光輝。二祖少林曾契入、了了常知言不及、雖然道得十成來、未免師前叉手立。長慶自云也大差、卷起簾來見天下、蒲團坐破太遲生、鈍鳥栖蘆何足詫。總不如吾徹洞然、不見一法留心田、飢來喫飯困來眠、說佛嗽口須三年。

示廣藏主。

一葉落天下秋、南岳天台拄杖頭、一塵起大地收、五湖四海雲悠悠。冷泉開口便成錯、解送禪流去行脚、大家相聚喫莖薑、眉毛厮結良不惡。廣也朝來持此卷、請我曲爲垂方便、佛手未

伸驢脚出、石火電光薦不薦。汝雖昔年曾侍吾、未嘗有語相塗糊、丈夫各自頂天地、逼鷓化鵬非令圖。豎拂挂拂生枝節、也不震威施一喝、左提右挈折脚鐺、七十山翁頭似雪。

送鍾山琢維那歸華頂。

大圭不琢、密印無文、當陽拈出、函蓋乾坤。金椎影動日月黑、百億須彌消一擊、圓悟關中掉臂過、華頂峰頭翹足立。

虛庵偈。

我觀虛庵虛不虛、是中不有亦不無、六窓晝夜明豁豁、內外洞徹如水壺。此菴門戶非通窰、外道天魔同出入、空無侍者唯一牀、言前勘破維摩詰。有時突出紅塵內、合水和泥旋修蓋。有問其中事若何、一句迥超聲色外。驀然移向深山中、山花山鳥春融融、不豎拳頭閒捏怪、客來隨分施家風。道流之樂有如此、拈却禪悅與法喜、夜深圓月正當空、知心只有寒山子。

示恕藏主。

恕本慈悲本恕、有來由無本據。德山之棒臨濟喝、總是慈悲喜捨具。五千餘卷老婆心、黃面瞿曇屬流布。子今直下解知歸、江西湖南與麼去。布颿一幅挂天風、白鴈叫入秋雲暮。

贈靈谷進首座。

若起精進心、是妄非精進。首座有長處、三年逢一閏。進無所進將焉求、止無所止心自休。眉閒挂劍破鬼膽、寒光凜凜橫九秋。不學陳睦州撈折雲門足、不學法雲杲徒把茶瓢觸。月白鍾山一夢迴、滿耳松風度新曲。咄咄咄力口希、離四句絕百非、

三千里外有知己、大唐國裏無禪師。

次韻贈徑山清藏主。

如來藏海、本無清濁、未達其源、妄生卜度。陵霄峰頭雙徑分、煙霞巖壑相吐吞、井底蓬塵漲天黑、山上鯉魚飛入雲。不知此是何宗旨、會得目前無不是、秋風一舸歸故鄉、千林楓落吳江水。

用韻贈湛藏主再參。

肋下剝衿、袖頭打領、事事現成、何須猛省。瞻風撥草扣諸方、鍊額銅頭誰敢當、等閒撲碎如來藏、摩尼烟烟生輝光。子今無聞我無說、八萬法門俱透徹、再參句子沒商量、只有嗔拳并熱喝。

示金山楚藏主。

自西自東、或吳或楚、滿懷風月、一筇煙雨。所參何事明何宗、見不見兮逢不逢、善財繞山走七日、德雲不下妙高峰。與汝往來者是藏、平地無風起波浪、盡未來際覓蹤由、羚羊挂角千峰上。楚禪楚禪宜委悉、得之不費纖毫力、阿難門前倒刹竿、扶桑人種陝西田。

示圭都文。

至言本無文、大圭元不琢、一句定綱宗、頂門開正眼。臨機應用時、是非俱一剗、拋却栗棘蓬、撼碎漏燈鱗。一明一切明、一斬一切斬、多少馳求人、忙忙自流轉。

山西澄禪人鑿井求偈。

道人爲物心勇猛、韓心領頭深鑿井、行人六月渴心焦、轆轤畫卷水華冷。道人學道功用超、如鑿此井寧辭勞、漸見濕土知水近、卽卽卽佛良非遙。今日來參何所慕、未動舌頭知落處、護身符子入手中、臺山路上驀直去。

次韻送蔣山淨首座。

清淨本然、何動何寂、名不可名、迹不可迹。首座有長處、龍門遭點額、還鄉曲調新、襖衫顛倒著。無是不是非不非、天荒地老和音誰、鍾山跳入瓦官閣、無毛鍊鷄梢空飛。

贈蔣山入藏主。

大藏小藏、演出演入、一句全提、春雷破蟄。誌公杖頭古刀尺、地老天荒人不識、截斷虛空作兩邊、舜若多神面門赤。

送現時庵住處州常樂寺。

常樂法門、非新非故、本自如如、何有來去。收之則攝入臺端、放之則徧一切處。不離當念現前、當依如是而住。時菴處世如旅泊、隨處住處常安樂、衆生日夜自開堂、白牯狸奴成正覺。石頭索箇鋤斧子、平地波濤漲天起、藥山三篋束却腰、白日青天諱神鬼。越格起宗大丈夫、齷人師子非韓盧、鏡容杖頭古刀尺、拈來用之無欠餘。阿呵呵甚奇特。當陽坐斷枯蒼山、八面清風動坤極。

送達禪人遊五臺。

路逢達道人、不將語嚙對、文殊七佛師、到此都不會。金毛師子現全身、百千萬億空中塵、金剛寶劍雖在握、衆生不斷無明。

根。子去當機須辨的、纔涉廉纖卽成惑、長松樹下牧牛翁、擡眸鶴過新羅國。

贈倫藏主。

絕類絕倫、超宗越格、言不能言、迹不能迹。一大藏教說不到、黃面瞿曇口門窄、東山道箇鉢囉孃、白日青天轟霹靂。子也參禪莫等閑、直須拶透生死關、戮瞎頂門三隻眼、方知虎體元來斑。賣却布單行脚去、決擇心如水東注、背却法堂著草鞋、主賓彼此風規露。是作家漢能承當、自餘碌碌皆望洋、山翁頽然坐匡牀、燕語鶯吟春晝長。

愚藏主號必明。

必明必明、唯此一事、苟不明之、埋沒自己。斷臂師僧立深雪、忍凍忘飢求一決。雪峰九到與三登、脚下草鞋無一截。長慶七個破蒲團、臨濟六十蒿杖拂。看渠爲甚何區區、多生只在今生畢。必明必明合如此、阿誰不是奇男子。二時粥飯禰用心、暫時不在活人死。驀然打破太虛空、西方夜半金烏紅、井底蝦蟇吞却月、林閒石虎嘯生風。父子不傳無妙訣、豎拂挂拂閒施設。汝耳不聾我不喝、免使傍人驚吐舌。

示壽侍者。

無生滅法是寔相、與太虛空同壽量、現前一念卽眞如、衆生分上佛分上。參禪只爲者一著、正因出家與行脚、今朝不了又明朝、孟浪一生空過却。借問當人知不知、丈夫端的是男兒、喫箇油糍肚不飢、老僧失却一莖眉。

送壽安居士鄭伯和。

壽安居士侯門客、事佛年深戒清白、檀度門頭利自他、了達三輪體空寂。念佛參禪爲本領、十二時中常猛省、到家一句恰相當、究竟不離於自性。龐公舉措非眞俗、慣聽馬祖無絃曲、不消一拶便知歸、六六元來三十六。

〔歌〕

休牧歌、爲寶曇作。

休牧道人樂道多、請我爲作休牧歌、我歌萬象側耳聽、木人按拍聲相和。道人胡爲號休牧、牧旣絕兮牛已熟、鼻孔遼天不用穿、角長也不東西觸。飢來隨分納些些、春草青青春水綠、驀然畊徧劫空田、不枉從前苦調伏。三叉路口風日晴、綠楊枝上黃鸝鳴。有時獨在淺沙臥、有時緩向平原行。仰山看之三歲久、固不別借他人手、只知樹下坐推推、寧解翻身打觔斗。老安牧之三十年、用盡心力還可憐、雖然趁亦不冒去、何曾穩向菴中眠。爭似吾今休牧客、不把繩頭與鞭策、人兮牛兮兩相忘、短笛一聲山月白。

丘菴歌、爲海藏主作。

萬仞峰頭一茆屋、白雲飛來欄下宿、蒙頭衲被坐堆堆、松風解奏無絃曲。此菴不審何年盖、窓戶玲瓏無內外、山鳥自歌花自開、擬欲觀心成捏怪。德山盤結非先後、孤峰頂上師子吼、白棒驗盡天下人、呵佛罵祖開大口。老常不是阿碌碌、非心非佛

從他惑、又移茆舍入深居、一言勘破樵子熟。汝者岳菴寧似渠、似渠終是非吾廬、倚人墻壁佗家奴、大坐當軒方丈夫。

送璿象初住溧水興化。

少年道流初出世、來問山翁索禪偈。偈是語言三昧門、尔無所益何獨愛。瞿曇貫華亦不無、字字化作驪龍珠、群生顛倒熱惱海、破除焦渴須醍醐。既是姪孫聊一道、住山一事非小小、播揚大教在傳宗、年德俱高稱長老。汝今少壯當磊落、法戰場中恣酬酢、淨因一喝分五教、直令四座俱驚愕。山翁老眼重摩挲、看汝一鼓天池波、龍河家世未寂寞、我今屬意良不頗。

送需侍者參方。

鼎菴需入雲門室、一掃從前邪解無、古鏡重磨吞萬象、精金百鍊出洪鑪。趙州未必輸文遠、臨濟何曾許克符。雨過春泥深沒馬、出門何處是通途。

示福維那。

福業何如道業高、成功不枉此生勞、楚材自可爲華棟、分鐵真堪打寶刀。興化爲人施惡辣、克賓法戰逞英豪、病翁未敢輕年少、萬里雲霄見鳳毛。

〔序〕

四分比丘戒本序。

大矣哉、佛之戒律、與王者之憲章、並行于世。使人捨惡而趨善、去邪而就正。其陰翊王度、有功於天下也博甚。然戒期于

無戒、刑期于無刑、如是則不治而自治、不化而自化矣。洪惟、大覺世尊之出世也、於四十九年之間、隨事制律、以繩其徒。然戒有多品、受有高下。優婆塞卽五戒、沙彌卽十戒、比丘二百五十戒、比丘尼五百戒、大乘菩薩卽三聚淨戒也。世尊將入滅、唱于衆曰、吾滅度後、以波羅提木又爲汝之師。波羅提木又者戒也。後門人結集三藏、優波離誦出律部。及教流華夏、諸師之弘律者、代有其人。惟南山宣律師爲之最、此四分比丘五戒本、實南山之所定也。南山傳至于今、七百餘年矣。有合肥居士童福宗、施已質重刻戒本、欲廣行于世、徵序於予。予視今之爲吾徒者、多忽於戒律、至有未嘗受戒而自稱曰比丘、恬不知媿。古之人、如澧州高沙彌、傳藥山宗旨、有行有解、以不得受戒、但終身稱爲沙彌而已。吁、何古今名稱之相戾也如此。予忝居善世、慨念京滅四方僧徒所萃之地而戒壇未立、欲請于朝。而志願未遂、又安知他日之成此事獨無人耶。今福宗之刊此戒本、豈非將來之先兆乎。福宗雖在家、而堅持淨戒、精修禪學、一室翛然、類林下衲子。觀其留意戒本、卽其趣尚槩可見矣。併書左方。洪武二十三年歲在庚午冬十月既望、善世禪寺住持天台比丘□□序。

〔書〕

與道場物先和尚書。

前歲之冬、河上連月獲絃風好、且承、具陳於先保寧法叔室中、

得其旨要、不忘所自敬爲燒香、吾門幸甚。然吾宗授受、以心傳心、如鏡照鏡、無毫髮間隔。從上諸祖、莫不皆然、迨至末流、始以辨事、以當傳受。與古人相去遠甚。吾兄識見、有合古人、一掃末流久習之弊。先叔大寂定中、寧不爲之一莞然耶。自別以來、竊聞住山說法、種種殊勝、而施者友集、爭願起造衆屋。非吾兄福緣兩具、曷以致此。近於翔南雲處、得先叔所遺伽黎并頂相。南雲病不能往、特委戒藏主、送上此衣像、卽大陽之履也。吾兄昌大先叔之門、亦何以異於投子青公者哉。是用具尺楮、敬修賀意、惟幾垂納、幸甚。冬寒、爲衆自重、不備。

全室和尚語錄 卷中

比丘絕海助刊。

全室和尚語錄 卷第三

記讚題跋祭文

〔記〕

念佛三昧記

洪武十九年春、蜀王殿下有旨、命臣宗泐、撰念佛三昧記。臣禪者、兼修淨業、雖素不文、不敢固辭。夫念佛三昧者、心想口誦、皆名念佛。佛自性也。人所具、有復何假於念爲。盖以自力未至、乃假佗力、由外以修內也。然修行之要、有二者焉、皆可得道。一曰無念、二曰有念。無念者、卽真如三昧、一心之法在乎、惺惺寂寂、不起攀緣、實相應、能所雙泯、廓同太虛、自然合道。有念者、卽念佛三昧、存想佛之三身、無量功德、乃至國土清淨莊嚴、專心不亂、至想成時、亦得見佛悟道。雖然、有念而至無念、有修而至無脩、能如是、豈非達修無所修、念無所念者乎。我釋迦如來、娑婆教主也。於諸經中、隨處偏讚阿彌陀佛極樂國土。普廣大士、嘗問佛曰、十方悉有淨土、何以偏讚西方。佛乃告曰、閻浮提人、心多濁亂、令其專心一境、易得往生。若總念一切佛者、境寬心散、三昧難成、諸佛同一法性、念一佛卽念一切佛、生一淨土、卽生一切淨土也。且夫娑婆穢土也、有流轉生死之苦、而壽則有量。極樂淨土也、無有衆苦、永證無生法忍、其壽則無量矣。由是觀之、二土之淨穢苦樂生死壽量、有如是不同者、可不致精誠於

是焉。如曼殊室利普賢二大士、已證極果、而猶願生淨土、助揚佛化、以垂訓後世耳。自教入中國、晉慧遠法師、與當時高士劉遺民等、於廬山結社、修此三昧也。距今千有餘年、世人行之、而獲徵驗者非一、多見於傳記。夫王者之所修、與庶人異、其種族之貴、根器之大、福智之深、故三昧易成、豈區區小智尠福之人、可得而企及哉。臣記、昔成穆貴妃之臨薨也、力疾危坐、念佛不輟、見有光彩之象、問諸左右。皆云、無所見。唯主上見有紅人者坐于鍾山之頂、良久乃去、召臣宣諭其故。臣奏曰、此貴妃念佛之明驗也、阿彌陀佛有大誓願、凡念佛者、臨命終時、化佛迎歸淨土、彼紅人者、即化佛也。上頗然之。此臣所知、不敢隱、并錄爲記。

〔讚〕

彌陀相。

稽首西方大導師、無量淨土無量壽、光明亦無有限量、是故號曰阿彌陀。寶藏揭開施誓願、攝諸衆生入淨土、有一衆生不入者、我則不取於正覺。我今觀斯所繪像、復繪真經繞其體、經是娑婆教主說、勸令念佛生彼土。彼土清淨此土穢、淨穢皆由心所生、普願衆生心清淨、無念無修同證入。

出山相二。

從無量劫來、已了二無我、三界強出頭、六年虛冷坐。旄頭星現時、大地人受禍、本無能修因、何有所證果。空盡衆生界、

此願誠不可、茫茫苦海深、且自牢把舵。

六年苦行無修證、豈爲明星眼豁開、業海茫茫空不得、徒煩特地出山來。

觀音二。

草座銖衣自在身、淨瓶楊柳一枝春、南詢童子來參後、滿目風光不見人。

白華岩畔浪翻空、水月光中現寶容、耳色眼聲俱了了、更於何處覓圓通。

蓮葉觀音。

苦海波深一葉航、淨瓶甘露散清香、衆生多少沈淪者、不見慈悲三昧光。

文殊大士二。

稽首聖者妙吉祥、是法王子七佛師、從曠大劫駕願輪、分身助揚佛聖化。以如實智破惑網、如然明燈照暗室、以幻化法滅幻化、如將毒藥攻毒病。良哉具此擇法眼、稱讚圓通不思議、如大商人入寶聚、善能分別無價珍。普現塵刹度羣生、而常安住清涼境、願我進脩不退轉、獲此智慧解脫海。

以一文殊、百千萬億、萬億非真、一亦非實。云何大士、現如是相、蒲衣繞體、髻髮被頂。又復何以不示全身、手中執者、乃是何經。若以相觀、空花翳眼、不以相觀、真體全現。我知大士、以如實智、破彼羣疑、生佛不二。智花莊嚴、行果成就、入衆生界、悲心普覆。智行具泯、則無悲願、是法王子、名不

退轉。

普賢大士三。

稽首心聞勝願王、一切如來真長子、勤修無邊殊勝行、不獨自利兼利他。十種廣大行願輪、始自禮敬及回向、盡微盡劫作佛事、念念相續無間斷。惟此無作妙行力、及以無知妙智力、智花莊嚴行果就、究竟不離於自心。假使虛空以爲口、讚嘆功德不可盡、願身口意恒清淨、得證解脫不思議。

稽首心聞大願王、微塵刹海泛慈航、衆生各自成佛了、此願依然不可量。

布袋。

拽杖獨行拖布袋、供他多少人憎愛、十字街頭等阿誰、忘却龍華豈三會。

應真。

應真住世間、如月行水中、月本無所著、水亦非亦容。以無所著故、隨緣而攝化、應真乃強名、世間亦虛假。何況以筆幻、幻出諸幻相、以相求其真、展轉成誕妄。譬如空中華、眼觀亂襟隕、空非真有華、由眼之所眩。我知寂滅海、寂滅而不滅、幻滅都消盡、真滅自超越。又知無漏智、慧光悉圓明、外現而由祕、安知非大乘。筆幻一微塵、何以寄吾讚、我今說是言、亦復如筆幻。

達磨祖師。

渺渺長江一葉蘆、眼睛突出背盧都、廓然無聖真消息、多少男

兒不丈夫。

大慧和尚。

蚌蛤禪開口、便說黑竹篋、佛來也打、全沒秋毫人情。有甚之乎者也、奪賊鎗騎賊馬。暗鳴吒咤、慈悲喜捨、狗看熱油鑊、鼻頭垂向下。

佛智師祖。

獨坐大雄峰、鍊蛇橫古路。南山白額虎、齒牙如劍樹。井底有蓬蘽、是甚賓主句。拈起四藤條、打落白玉兔。末後沒覆藏、梅花消息露。兒孫不啣嚼、盡把家私數。數出數不出、五五二十五。

天童了堂和尚。

放出無毛鍊鵠、提起破沙盆話、坐斷太白峰前、一味遼天索價。全機獨脫兮或縱或擒、大用現前兮非取非捨。退藏一室、芥子不窄、落筆千偈、九河倒瀉。此時見其小耳、未足語其大者、謂其東海暮翁家法之妙、也是鬼門上貼卦。丹青寫此白眉長、留與人閒光照夜。

淨慈竹庵和尚。

同年同師同道、未免變白爲皂。檀板合無孔笛、節柏相酬恰好、爭覩驚自橫空、或謂白門生肇。兄已遷化他方、我尚隨俗顛倒、今朝展像如生、讚嘆相成懊惱。南山白額大蟲、放出平田淺草、拈起鍊蒺藜椎、擊碎頂門一竅。永明宗旨、孰異孰同、黃龍三關、非玄非要。良渚岸頭舊話行、祖父田園解克紹。

古鼎和尚。

身大不及膽、萬卷何處著。仲靈禱而慧、此論曾未確。居不動類乎四禪、口妙明顯乎性覺。祖翁三代追蹤、合與一坑埋却、只將一味慈悲、稱性醍醐毒藥。有時壁立三關、伸出佛手驢脚。咄哉達觀投書、賣弄末後一著、至今流布諸方、聚銅難鑄此錯。壽昌有法可傳、白日雷霆雪雹。

白菴和尚。

〔脫丁〕〔幻〕上原本佚失一十二行、行二十字一葉〕

幻隱其猶生邪、東南叢席、有此一翁。幻隱其果滅邪、猿驚鶴怨、月冷山空。也不生也不滅、孰真孰幻、非異非同。泰山出雲彌於六合、倏焉歛之不見其踪。南安巖之說偈、自弗用于神通、靈鷲峰之入寂、波旬逞其咲容。噫、定慧之光、無今無古、燁然江海之中。

左覺義天淵和尚、爲荷長老贊。

參憚在乎傳道、讀書在乎輔教。前無潛子器之、未免和腔合調。始焉偃蹇海濱、蓋將與時屈神。逮乎承詔而起、力任大法千鈞。猗歟羽嘉鷺鷥、文采累世復光。耀於諸昆至若、撼碎栗棘金圈、換人眼目。黃河九曲、水出崑崙。尚看一肩荷負、五色天岸祥麟。

善世總統覺源和尚。

一代偉人魁梧傑、特結九重之睿知、作善世之儀則。妙用不如眞實、面赤不如語直、驀然怒若雷霆、倏爾青天白日。五處滴水滴凍、秤錘捻得汁出。破蕩廣智門庭、貴要兒孫著力。拈取簸箕別處春、南海波斯雙脚赤。

俊藏主請贊。

無面目漢、不近人情、雪中揀粉、火裏敲冰。拈須彌稱作二兩、束虛空置于一瓶。也不是自得三昧、也不是大用繁興。黃蘗打臨濟六十拄杖、高安灘頭突出金剛眼睛。眞是風行草偃、自然水到渠成、俊鶻捎空如電掣、神州赤縣看飛騰。

慶藏主請贊。

慶雲在天、太平無象、一句全提、風清月朗。正宗堂前、激揚綱要、施呈伎倆。猛虎領下解鈴、毒蛇鼻頭揩痒、拈却本分草料、教渠去著槽廠。一喝三日耳聾、伸手不是掌咄。

華首座請贊。

一箇幻身、不過七尺、東土西天、總著不得。甘心貶向槎峰、冷坐也如面壁。有時就下平高、拋出金圈栗棘、將此以當宗乘、何異研空求迹。黃蘗坐斷南泉位、天岸祥麟看五色。

昇西堂請贊。

住山四處只隨緣、對衆常談蚌蛤禪。慙愧無才輔宗教、伽黎空惹御爐煙。

石佛誠長老請贊。

形非類我、類我非形、水中鹽味、色裏膠青。乍而見之、冷面

如水、久而親之、和氣春生。非乍非久、道出常情、一言相契、萬古風情。

性長老請贊。

者老漢性執拗、不會禪不通教、手中黑漆竹篋、一味胡揮亂掃。凌蔑臨濟門風、花擘三玄三要。有時拈五色筆畫太虛空、有時將丈六身作一莖草。如此施設、好也不好。分付疎山莫學渠、熨斗煎茶不同銚。

圓通祚長老請贊。

隨緣四處住山、恣意拋沙撒土、宗教無力匡持、孤負遭逢聖主。五年往返西乾、寸步不離東楚、甘心貶向槎峰、出語太煞莽鹵。祚姪勸請敷揚、大啓圓通門戶。未免遞相鈍置、也是合火聾聵。要令後代兒孫、續焰流芳千古。

〔題跋〕

題中峰和尚帖後。

幻住老人、肆口而說、肆筆而書。如風行水面、自然成紋、天鼓妙音、自然敷奏。亦何嘗有一點去不盡底、礙于胸臆之閒哉。我今觀與圓鏡首座一帖、非唯理趣超邁、其於人事、亦甚周至。燕坐天目峰頂、受王公貴人、望風下拜、四海龍象、投誠趨附者、豈非以能曲徇時宜致耶。一原法師、以此帖見示。漫題數語于後、是猶爲蛇添足也。

題諸師遺墨後。

右、古田・方山・東峙(嶼)・無見・秋江五大老、遺墨五紙。今鴻福彝季則長老、得之於其伯父王思晦處、合爲一軸、求予識其後。此五大老、皆吾鄉前輩尊宿、當元之盛時、雖出處之迹稍異、然其道德聞望、流播江海之閒、不相上下。古田・方山、唱斷橋之道于南屏。東峙、唱石林之道繼之、先後數十年、輝映叢林、何其盛哉。無見居華頂、追躡高庵之風。秋江居松岩、又與華頂角立矣。如華頂之火葬、松岩之活埋、末後光明盛大、近代不多見也。□生於諸老後、道荒德薄、荐罹患難。慨想高風遠度、深有愧焉、聊書以識。

題諸老偈卷後。

右、幻住長偈、中天竺瀨翁・懶庵兄偈、凡四篇合爲一卷。此皆黃思信血書華嚴合論者也。瀝血書經、爲法忘軀、難捨能捨、難行能行。其功德不可思議。雖然、眞如界內、絕生佛名、平等性中、無自佗相。世尊未嘗說、棗栢未嘗論、思信未嘗書、四大老未嘗贊嘆。是有功德邪、無功德邪、可思議耶、不可思議耶。圓機之士、試定當看。

題寂照與先師等尊宿十三人勝集圖。

右、圖尊宿十有三人、獨月江・平石・千岩・居中四老、予不及識、皆予父師行也。觀諸尊宿、生雖同時、而齒有少長、又化各異方、或千里之遙、或一二十年之久。未嘗及一見、乃圖曰勝集何耶。如匡山之十八士、香山之九老。蓋時同會同、世或圖之可也。意今繪者、以爲諸老同爲善知識、同接物利生、

出處雖異、而心與道、未嘗不同也。特略其所異、重其所同、見于一圖、何不可哉。前輩典刑、今不復見、正宗寥寥、撫卷憎慨。

跋覺範和尚墨迹。

通慧之僧傳、議者謂其蕪穢、寂音之百禪師傳、妙喜祖去其十九人、是豈杜後世有議之者乎。彼十九人去之苟當、尤表寂音作之不苟、宜乎垂之千載、大抵立言之士、去取或不自定、佗人乃能定之、蘇長公所謂、後世誰知□定吾文者、是也。寶林僑伯舉法師、以此帖見示、因識其後。

題靈源清禪師小簡後。

佛壽禪師、風神洞冰雪、而識趣卓絕流輩。故其言語奇峭、倚天長劍、寒光凜然。至若謂學者病在偷心未死、如漢高帝之剗韓信。其心果死乎、其言尤爲簡拔。予少時、嘗讀師筆語、詞氣嚴正、深得宗匠體裁。今觀與輔首座小簡、槩可知矣。故識其左方云。

題五十三參圖後。

善財、歷百十城、參見五十三人善知識、聞說無量不思議法門、獲入無量不思議境界、成就一切勝妙功德、能事畢矣。然一真界內、初無如是等事。是知諸善知識無說、善財無聞、與夫不思議法不思議境、乃至一切勝妙功德、悉皆如幻。而繪畫圖象者、大虛空中一塵耳、予言亦何有哉。

跋天目和尚遺墨。

甚矣習氣之難捨也、雖證果之人、猶未能忘、如飲光之聞樂起舞、是已。王維亦曰、宿世詞客、前身畫師、蓋自不能捨其餘習也。今觀天目禪師所寫詩、詞切有感焉。禪師傳佛祖之道、爲人天師、而道德聞望、洋溢海內、至于今不衰。暮年猶以詩詞小伎、遊戲三昧、是豈非餘習也耶。故爲之書。

題大經問答要義後。

六經問答要義者、僧錄司左講經具菴法師所問、天台沙門法如一庵所答也。先是有旨、命天下僧徒、試六經得度牒、一庵方菴、居吳興之蘭峰、聞有是舉、乃躡草屨、短衣長髮、走京師受試。逮立僧錄司掌教門事、復有就試經列、故有是答。他日錄以示予、或有問於予曰、一庵禪者、乃試經業、豈心宗之旨哉。予曰、不然、夫教與禪、名異而體同、具吾佛所說之經、皆心法也。如華嚴之一念性起心、楞嚴之常住妙明心、般若之無所住心、楞伽之自覺聖智心、圓覺之大光明藏圓照心、法華之開示悟入如來知見心、與禪之涅槃妙心、豈有二哉。局見淺識者、各封所宗、互相矛盾、非通論也。一庵有云、六經卽一經也、一經卽一句也、一句卽非句也、求其非句、了不可得、孰爲禪乎、孰爲教乎。或者唯唯、遂書于卷末。一庵嘗居徑山知藏、今開法吳興黃岩寺、有四經總要圖、華嚴世界圖、行于世云。

題仁一初講經文集後。

吾學佛者之所脩、猶居宅也、以戒行爲外舍、以道德爲堂奧、

而文章則藩籬也。藩籬以備佗侵、文章以禦外侮。苟無外侮、雖文章不作可也。或謂、文章以發道德之蘊、不可無也。今讀一初仁法師之文集信已。予與一初、相知甚久。今聖天子、立僧錄司、以綱領教門。予忝居右善世、一初居左講經、又爲僚友。累見一初之奏對、以文章發明經旨、予乃知文爲有用之具、不徒作也。嗟乎、藩籬既嚴矣、肩壁既固矣、堂奧亦深且廣矣、復何外侮之足慮哉。於是乎言。

跋潞國張公詩集後。

右、潞國張公詩集若干卷、蘆陵沙門大籽北山之所編集也。先是、潞公於元季多故之際、薨于燕都、由其無後、北山爲之經紀葬事。未幾、天兵北伐、燕都不守。北山取其遺藁歸江南、凡選得九百首、將刊板以行于世。或有問於予曰、北山釋之有道者、宜視身爲外物、而乃汲汲於故人詩集、得非未能遺情乎。予謂之曰、至人不遺情、古之高僧、猶不能免、如梁惠約、以苦行得道、爲帝王師。而哭其亡友至哀、賦詩曰、我有兩行淚、不落三十年、今朝爲君盡、併洒秋風前。北山念潞公無後、平日交友、又皆異世淪謝、懼其泯沒無傳故、仗義而爲之、然亦何害於道。其與約之情則一也。當元統甲戌閒、余識潞公于金陵、後會于燕都于錢塘、盖三十餘年、固非一日之好。觀北山斯舉、豈能無動于中。謹書卷末如此。若潞公之詩名、震耀海內、不俟余之稱美、故弗論。

題東坡題虎跑泉詩後。

蘇長公題虎跑泉詩卷、至正二年、益友庵、自燕都携歸龍河、予得見之。洪武九年、見于梓北山處。十八年春、虎跑戒定岩、使其徒携來槎峰、又得見之。噫四十四年之閒、凡三見此卷。自兵變後、天下法書名畫、零落殆盡。何此卷流轉南北獨無恙、豈有神物呵護之邪。既復虎跑、是猶完璧歸趙。當刻之石、以爲山中故事。

跋虞黃二公帖後。

先廣智師、居龍河時、士大夫之書疏、堆箱積篋、不知其數。此虞黃二帖、予侍先師左右親見、遞至計今已五十四五年矣。先師遷化已四十八年、虞黃二公、亦垂四十年。不知此二帖何人收之。今乃爲銘玉維那所有、老眼昏花、偶一見之、如隔生者、爲之三嘆。

題泰岱宗佛法金湯編後。

自正法付王臣以來、至今二千餘年、帝王公卿、爲法外護者、代有其人。觀此佛法金湯編、槩可見矣、護法之人、既如金城湯池之固、使外侮不得而入。弘法之人、又當力行而振起之、以副護法之心。如是則教法烏有不興者乎。雖然、金湯之設、以備佗寇、佗寇之作、猶可禦之。至有竊比丘形服、內壞教法者、是家寇也。家寇內作、雖有金湯外固、亦將無如之何矣。況末法之流、率多放逸、性不知媿、由是教法漸微。是知、泰公是書、不爲誇耀於世、殆將有警於吾徒也。烏乎、爲吾徒者、得不思且省乎。

題米芾書嵩山珪禪師。

予觀珪禪師、爲岳神受戒、破竈墮和尚、爲竈神說法。事頗相類、二師皆居嵩山、皆示其本有之性、各悟無生法忍。然以無戒而戒、戒而無戒、無說而說、說而無說、卽生滅而契無生、卽差別而入平等。諸佛說法、常依二諦、信已。若米公、以善書名世。茲故弗論弗論。

〔祭文〕

祭先師。

惟師以故元至正四年五月廿有四日遷化、是年八月十六日、奉全身安葬石城之岡。于今三十一年矣。迺因土崩及竊、不可復治。遂於城南撥雲山之下、得一善地、以圖遷葬、營造石塔庵宇。茲已告成、謹卜今日三日之吉、奉送靈骨、歸藏于塔、以安師靈、以慰孝思。自今以^後、奉祠弗絕、終古其承之、敢告。

祭牧隱和尚。

洪武四年秋、前鴻福牧隱謙公禪師、以赴召來京師、館于天界善世禪寺。十有二日己亥、示微疾化去。越三日、同赴召比丘、宗泐・思聰・崇裕・智順・志一・夷簡・清濬、謹備齋食湯茗、以蔡爲文。而告之曰、嗚呼、智可以周萬物、而不能自利其身、言可以行後世、而莫或見信於時人。觀往詰之載籍、累癡卷而長呻。今於公而目見、益感慨以酸辛。公夙志之超邁、亦自陋於居閩。取師友於廣衆、深雋永夫道眞。惡緣名而失實、會衆

派於同源。寓著述以致意、嘗鬱鬱于海濱。蒙大廷之召見、幸際遇乎昌辰。將上書以輔教、庶曩願之可伸。何翩然其遐逝、等蟬蛻于垢氛。覽遺詞之正見、非造詣其焉臻。彼忝竊于形服、乃安佚於百春。雖一時而得志、卽泯泯而無聞。公有傳於不朽、宜垂裕于後昆。道假言而久著、豈徒騁乎其文。念眞風之不競、殆老成之罕存。非爲公而一慟、盖以痛夫吾門。

祭清涼用法叔。

與公相知、垂四十年、以道義處無少閒然、龍河之溪、徑塢之巔、行則^屢履接、座則席聯、或答以詞、或詰以禪。風情月思、累牘盈編、中遭兵阻楚越山川、音問靡通、歲月屢遷。我在瀾右、公來海壖、劃然相遇、克遂笑言。我莅茲席、公亦在焉、迎之上座、以爲衆先。方期晚歲、庶永周旋。云胡告寂、曾不少延。公之所蘊、如水之淵。道合儒釋、學貫人天。操履篤實、惕若乾乾。舍智用愚、中弗外宣。閒居一室、積塵滿前。睦州風規、人所仰旃。百年聚散、瓢若雲煙。生滅去來、何足控搏。慨念宗社、寂寥可憐。老成旣隕、孰扶其顛。遺傷辭衆、定力安口。聊陳菲供、用寫情悃。

祭淨慈竹菴法兄。

生死一漚、倏起倏滅、千古刹那、何有永訣。嗟彼世人、獨以愛結、死離則悲、生聚則說。今我之悲、與彼不同、匪私于哀、所存在公。梵苑彫瘁、秋葉隕風、寥寥宇宙、孰亢吾宗。疇昔同門、無幾存者、而兄又亡、情弗能捨。我何獨立、弔影長詫、

忍讀遺言、有淚如瀉。念自童卯、爲法弟昆、人謂連璧、萃于一門。以行砥礪、以道討論、不尚薄俗、相期古人。後二十年、天南地北、音問睽違、風塵阻隔。中忽遠臨、慰我荒僻、兄目已昏、我髮已白。我在天竺、兄來南屏、人謂墳簾、克諧厥聲。兄退自得、我進無成、龍河故家、忝竊繼承。前歲之秋、師塔改竄、報兄來歸、同奉葬事。事既告成、旋還陞寺、曾不逾年、居然卽世。病不知時、卒不知日、訃音墮耳、中心如失。設利粲然、遺齒如石、尙營窳堵、載銘其實。始將聞訃、俄感夢魂、不異平昔、宛爾咲言。是夢是訃、不相後先、果有其因、亦豈偶然。生滅去來、孰彼孰此、水中之月、無處不是。大定安如、寂用一致。陳茲薄供、庶幾饗只。

前天界禪寺住山全室大禪師塔銘并序。

今上皇帝留神三教、召天下三教優學之士、會于天禧講寺、各修其教之書。而高行沙門、自四方而至、故予至自徑山。至之二月、全室禪師門人如昇、以師行實來曰、先師塔銘未著、若有所待、請序而銘之、毋辭。顧予年老才謏、不足以發敷禪師盛德、請授鉅公、辭不獲。按行實、師諱宗泐、字季潭、別號全室。台之臨海人、周姓。父吉甫。母葛氏。元延祐戊午七月十有七日生。始能坐輒加趺、父母異之。八歲、命從中天竺廣智禪師笑隱訶公學佛。凡經書過目成誦。十四、智爲薙髮。二

十受具。智開山金陵龍翔集慶寺、師與智俱。一日智問、國師三喚、侍者三應、意旨如何。師云、何得剜肉作瘡。智云、將謂汝奇特、原來只與麼。師喝。智擬捧之。師拂袖而出。自是入室、日臻玄奧。辛巳、遊兩浙江西、徧扣宿德、所至著聲。師寓情詞章、尤精隸古。一時名公薦紳、若虞文靖公集、黃文獻公潛、張路公翥、皆推重爲方外交。甲申、謁原叟禪師端公于徑山、語合、留掌記室。職褫、歸省智于集慶。丁亥、出世宣之水西、餘廿祀。寺之衆廢畢興。洪武戊申、遷住中天竺。三載、陞住雙徑。時西白禪師金公住天界、太祖高皇帝、問鬼神事。詔金舉高行沙門、師居其首。至則館于天界、對敷法要稱旨。旣而建普度大會于鍾山、師受命、製贊佛樂章、復說法、超度迷溺。太祖臨筵嘆美、命住天界寵崇之。開堂日、萬衆雲委、緇白向化。講行古規、啓迪方來、法席之設、於斯爲盛。太祖屢駕臨幸、召對內廷、賜膳無虛日。復和平日所作詩一帙、賜師。西天善世禪師板的達、入朝、見師歎曰、眞苦海慈航、大夜巨燭也耶。嘗患疾、駕臨慰問、使鑿診視、其際遇如此。丁巳春、奉詔、同如玘、註心經金剛楞伽三經、行世。太祖以佛書有遺逸、特命師、領徒三十餘人、徃西域求之、得莊嚴寶王文殊等經。洪武十五年三月還朝、當年開僧錄司、以右街善世之職授師。時或有教門事、當奏、同官皆逡巡畏縮不敢言。惟師能力言之。其敢言類如此。後因長官奏事獲譴、同往鳳陽槎峰建寺、三年訖工、勅賜圓通之額。十九年秋、趣歸天界、

引見賜詩、有泐翁去此問誰禪、朝夕常思在目前之句。後二年、火其舊寺、師以興復爲己任、率住山春公、奏重建寺于聚寶門外。太祖曰、可。師於是力爲、無倦色。凡寺宇之謀、方向之宜、廣袤之制、一出於師、落成。師別居城南三塔、闢一室、^額曰松下居、爲伏老之所。廿三年夏、詔再住天界。太祖曰、一百廿歲、永鎮綱宗。廿四年、復領右街善世。居無何、以老賜歸槎峰、詣關拜辭。太祖曰、寂寞觀明月、逍遙對白雲、汝其往哉。迺絕江、至江浦石佛寺。俄示微疾、謂如昇等曰、人之生滅、如海一漚、漚生漚滅、復歸於水、何處非寂滅之地耶。言已、遂泊然而寂。闍維設利無筭。實洪武廿四年九月十日也。世壽七十四。夏六十。門人道銓・如昇、斂靈骨餘骼、建塔天界、附于廣智塔右。仍分爪髮、塔于槎峰。手度弟子、行鷲・行飭等若干人。得法弟子、自性・守欽・行忠・普華・如昇等若干人。師之大父晦機、機師物初、初師北澗、澗師佛照、照之師大慧也。師賦性混融、襟度恢廓、身長七尺、經行若象王回旋、觀者竦訝。其扶樹宗教、得謀道不謀身、爲法不爲名之實。其論宗乘、引物連類、出入經史、剴切明白、使其泮然無疑。其與士大夫、評論古今、楊摧人品、若決江河、莫之能禦。師不爲崖岸斬絕之行、有嫗煦與進之々言。嗚呼、師之際遇、道德文章、一何盛哉。四董名利、皆著成績。四會語并外集、見別錄。師之行實、予多見而知之者、銘之無愧無愧。銘曰、

禪而不文玉韞石、文而不禪珠混礫。

禪而又文虎而翼、才德兼濟非易得。
台山磅礴氣儲積、閒生人物總英特。
偉哉全室眞逸格、巍巍堂堂禪巨擘。
道動萬乘恩屢錫、著于序文匪虛擲。
祖燈欲盡賴輝赫、祇樹垂秋仗扶植。
道經石佛俄示疾、漚水之喻明歷歷。
法幢忽摧成歎息、慈航旣傾誰拯溺。
荼毘設利燦五色、門人建塔鳳山脊。
永與鳳山勢相敵、我作銘詞示無極。

徑山佛幻比丘心泰撰。

古井天龍禪寺前住山比丘昌海、焚香拜書。